

令和 3 年度

地域貢献活動報告書



群馬県立県民健康科学大学



群馬県立県民健康科学大学

地域社会と交流を図り、

専門職向け事業

● 県立病院・県内病院連携事業



心臓血管センター

各病院が抱える課題解決に向け組織レベルで展開



がんセンター



精神医療センター



大学



小児医療センター

共通テーマ

- 4病院共通看護職員のキャリア開発の現状と課題
- 共同研究を通じた人材育成と大学への知の還元
- 備品の長期貸出

● 看護学教員養成課程



講義の模擬授業



演習の模擬授業

- 県内の看護学教員を目指す看護職者や病院などで学生や後輩看護師教育に携わる看護職者への教育機会の提供
- 大学の教育理念に基づく独自のカリキュラム(厚労省認可)
- 大学看護学部看護基礎教育と連動する本学ならではの教育展開

県民向け事業

● 教育普及事業

- 県民向けの「公開講座」「公開授業」「出前なんでも講座」により本学の教育と研究成果を県民に直接的に還元



公開講座の様子



出前なんでも講座の様子

● 放射線測定協力事業

- 放射線測定に関する助言・研修会
- 測定値の解釈・評価・公開
- 対策の立案・実施に関する助言「県民の安全安心の提供」

● 地域連携推進事業

- 大学や本センターの活動を広く県民に周知
- 群馬県健康福祉部や他大学との連携、ボランティア活動により、県民の保健医療福祉に寄与する地域に根ざした取り組み



- リーフレットの作成
- News Letterの発行(年3回)
- 地域貢献活動報告書の発行



- ボランティア活動(地域および病院での活動)

- 県内他大学との協力・連携事業
- 一般住民・団体を対象とした講演・研修
- 桂萱地区・芳賀地区住民との協働
- 地域に開かれた図書館



研修会の様子



放射線測定の様子

県民 専

地域

● 目指す地域

看護学分野

- 看護学教員養成課程
- 看護職研究支援事業
- 看護師特定行為研修課程
- 県立病院・県内病院連携事業
- 健康福祉政策事業

県立の保健医療系大学として研究成果などを、県民をはじめ、行政などに対し還元する療・福祉の向上に寄与する

地域連携センター2021

ともに発展することを目指して

● 看護師特定行為研修課程

- 指定研修機関として、群馬県内の慢性期・在宅医療等のニーズに対応し、手順書により一定の診療の補助ができる看護師を養成する機会の提供
- 授業ではeラーニングを導入、働きながら学修できる環境を準備



模擬患者様への医療面接場面

● 放射線教育・研修事業



放射線治療講習会



MRI技術講習会

- 学習指導要領の改訂に伴う学校教員等に対する放射線教育の支援
- 診療放射線技師の撮像技術向上、MRI専門技術者の資格取得を視野に入れた継続教育の実施

● 看護職研究支援事業 「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」



講義: 研究計画書の作成



講義: 文献検索と文献検討



講義: 研究における倫理

看護研究個別支援

- 「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」による看護職者への研究活動の支援
- テーマに合わせた担当教員の決定、およそ10か月にわたる個別支援

行政

連携

貢献の方向性

診療放射線学分野

- 放射線教育・研修事業
- 放射線測定協力事業
- 地域連携推進事業
- 健康寿命延伸プロジェクト
- 教育普及事業

て、大学が所有する知的財産
じめ広く関係機関、医療従事
ことにより、県民の保健・医

行政との協働事業

● 健康寿命延伸プロジェクト

群馬県健康福祉部
健康長寿社会づくり推進課



県民健康科学大学

- 地域の実態把握・課題分析・健康課題の明確化
- 調査研究・実践プログラムの開発・人材育成

科学的根拠に基づいた健康づくり対策の展開

- 健康長寿社会づくり推進課との健康寿命延伸シンポジウム開催等の協働事業
- 小規模町村支援事業
(榛東村との健康づくり推進に関する包括協定)
- 館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力
- 生活習慣改善のための健康教育教材の開発
- 健康増進効果検証事業に対する取り組み
- 沼田市「スマートウェルネスぬまた推進事業」への協力
- ぐんま元気エクステンションセミナーの開催



など

● 健康福祉政策事業

群馬県
健康福祉部
生活こども部

情報交換
マッチング

大学
看護学部
診療放射線学部

- 認知症サポーター・ステップアップ講座教材の普及活動
- 子育て講座プログラム政策・普及への協力
- 「若い世代の食育推進協議会」への参加
- 群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定
- 県営ワクチン接種センター支援事業への協力(R3)



令和3年度地域貢献活動報告書の発刊に寄せて

本学の地域連携センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的として、平成24年度に開設されました。平成30年度より本学の運営は群馬県公立大学法人へ移行されておりますが、開設から10年もの間、関係者の皆様には、地域連携センター事業の発展のために、ご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域連携センターの目的を果たすために思案を重ね、事業に取り組みました。今年度は以下の10事業を展開いたしました。

「看護学教員養成課程」は、厚生労働省による専任教員養成講習会の認定を受け、本学独自のカリキュラムに基づく教育を提供しています。令和3年度は11名が修了しました。

「看護師特定行為研修課程」は、厚生労働省による研修機関としての指定を受け、eラーニングや学内演習・実技試験、実習を経て第2期生4名が修了しました。

「県立病院連携事業」は、県立4病院の看護および診療放射線部門における課題解決に向けて行う事業ですが、コロナ禍により今年度は各病院において可能な範囲で研修を実施しました。また、次年度に向けて県の関連機関等と打合せを行いました。

「看護職研究支援事業」は、県内の看護職を対象にオンデマンド配信により、看護研究セミナーを3講座実施しました。さらに、4グループを対象に個別支援を行いました。

「放射線教育・研修事業」は、関東がん専門医療人養成拠点事業による講習会、オンラインによるCTやMRIの研究会の開催、共同研究を実施しました。また、群馬県診療放射線技師会が開催する講習会に講師派遣や開催を支援しました。

「放射線測定協力事業」は、要請のあった地域の放射線量測定を実施し、測定結果に基づく評価を行い、県民および地域の安心につながる情報提供を行いました。

「教育普及事業」は、オンデマンド配信による公開講座を2回配信しました。出前なんでも講座は感染防止対策を取りながら対面やオンラインにて一部提供しました。

「地域連携推進事業」は、Newsletterや地域貢献活動報告書、センター事業リーフレットを作成し、県民や関係機関への情報発信を行いました。また、県内他大学と協力し中高生向けのWeb公開講座やPR動画を作成しました。

「健康福祉政策事業」は、認知症サポーター養成支援について、県内から依頼を受け、研修を実施しました。また、県民の健康福祉施策は、県の関連機関と協働し、今後の活動について検討しました。今年度は県営ワクチン接種センター（中央・東毛）が設置され、接種前の問診や観察業務等について、本学の教員のべ215人が従事しました。

「健康寿命延伸プロジェクト」は、県の健康福祉部健康長寿社会づくり推進課と協力し実施していますが、コロナ禍のため中止しました。また、榛東村に対する小規模町村支援事業を行いました。その他、館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業、県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業、スマートウエルネスめまた推進事業への協力等もコロナ禍のため中止しました。ぐんま元気エクステンションセミナーは6件開催しました。

以上のように、コロナ禍においても活動を行い、1年間の活動報告書を発行できることになりました。一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と皆様のご健康をお祈り申し上げます。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年10月

地域連携センター長 行 田 智 子

目 次

I 地域連携センターの活動

1. 群馬県立県民健康科学大学 地域連携センター概要

1) 設置概要	2
2) 事業一覧	3

2. 事業報告

1) 看護学教員養成課程	4
2) 看護師特定行為研修課程	6
3) 県立病院・県内病院連携事業	8
4) 看護職研究支援事業	10
5) 放射線教育・研修事業	12
①放射線治療講習会	
②診療放射線CT・MRI研究会事業	
③診療放射線技師継続教育等事業	
④群馬県診療放射線技師会講習支援事業	
⑤国際化研究支援事業	
6) 放射線測定協力事業	18
7) 教育普及事業	19
8) 地域連携推進事業	21
9) 健康福祉政策事業	22
10) 健康寿命延伸プロジェクト	24
11) ピックアップ	26
12) Newsletter	27

II その他の地域貢献活動

1. 学会活動	34
2. 一般住民・団体を対象とした講演・研修	39
3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修	40
4. 行政組織での活動等	42
5. 任意団体での活動等	43
6. 他教育機関非常勤講師	44

III 関連規程

・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程	48
・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議 及び地域連携センター運営委員会設置運営細則	49

1) 設置概要

本学はこれまで、看護師、保健師及び診療放射線技師の養成校として、臨床現場で活躍できる多くの医療専門職を育成することで、地域の医療水準及び県民の健康水準の向上に貢献してきました。そのような中、平成19年の学校教育法の改正等により、「社会貢献」が「教育」、「研究」に次ぐ大学の第3の役割に位置づけられたことを踏まえ、本学においても、これまで以上に地域貢献を推進するため、平成24年4月に大学附属機関として、地域連携センターを設置しました。

本学地域連携センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民福祉の向上に寄与することを目的として、地域貢献に関する各種事業に取り組みます。

■地域連携センター運営会議構成員一覧（令和3年4月1日時点）

区 分		氏 名
委員長	地域連携センター長、健康福祉政策事業	行 田 智 子
副委員長	地域連携副センター長、健康寿命延伸プロジェクト	大 澤 真奈美
	地域連携副センター長、国際化研究支援事業	小 倉 敏 裕
委 員	看護学部長	横 山 京 子
	診療放射線学部長	下瀬川 正 幸
	看護学教員養成課程	高 橋 裕 子
	看護師特定行為研修課程	飯 田 苗 恵
	県立病院・県内病院連携事業（看護学部）	廣 瀬 規代美
	県立病院・県内病院連携事業（診療放射線学部）	上 原 真 澄
	看護職研究支援事業	上 山 真 美
	放射線教育・研修事業 放射線治療講習会事業	佐々木 浩 二
	放射線教育・研修事業 診療放射線技師CT・MRI研究会事業	林 則 夫
	放射線教育・研修事業 診療放射線技師継続教育等事業	高 橋 哲 彦
	放射線教育・研修事業 群馬県診療放射線技師会講習支援事業	五十嵐 博
	放射線測定協力事業	杉 野 雅 人
	教育普及事業	青 木 武 生
	地域連携推進事業	狩 野 太 郎
	事務局	新 井 徹
	(県健康福祉部健康福祉課)	島 田 和 之
	(学外有識者：県看護協会)	荻 原 京 子
	(学外有識者：県診療放射線技師会)	後 閑 隆 之
	(学外有識者：県医師会)	瀬 古 聖 一
	(学外有識者：県立心臓血管センター)	内 藤 滋 人

2) 事業概要

事業名	事業概要
1 看護学教員養成課程 P.4～5	看護師養成教育機関の看護学教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当者を対象とし、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識・技術を教授する。大学主体で看護基礎教育に携わる教育者の教育実践能力の維持向上を図る。
2 看護師特定行為研修課程 P.6～7	看護師特定行為研修の研修機関として指定を受け、在宅医療に貢献できる特定行為研修修了者を育成するための研修の機会を提供する。
3 県立病院・県内病院連携事業 P.8～9	県病院局総務課、県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）と本学で、4病院が抱える課題、たとえば人材育成等について、その解決に向けた連携事業を継続して、組織レベルで展開する。
4 看護職研究支援事業 P.10～11	県内の病院、行政機関、健診機関、訪問看護ステーション、福祉施設、事業所等に所属する看護師、保健師、助産師を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するための看護研究セミナーと、研究テーマに沿って看護研究の一連の過程を本学教員が支援する看護研究個別支援を実施し、県内の看護職者の研究活動を支援することで、研究能力の向上と県民の健康の保持・増進に寄与する研究成果の産出を図る。
5 放射線教育・研修事業 P.12～17	(1) 放射線治療講習会 がんプロフェッショナル基盤養成プランの一つとして、筑波大学を中心に取り組んでいる「関東がん専門医療人養成拠点」事業に沿って、放射線治療教育プログラムのセミナーを開催する。これを通じて、治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高める。 (2) 診療放射線CT・MRI研究会事業 県内の診療放射線技師の臨床研究支援事業として、臨床現場における画像診断検査の向上・発展を目的とする研究の推進と発表に必要な方法を討論する研究会を実施する。 (3) 診療放射線技師継続教育等事業 県内診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会等を開催するほか、MRIを用いた共同研究と研修会を実施する。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、がん等の疾病の早期発見の機会の増加を図る。 (4) 群馬県診療放射線技師会講習支援事業 診療放射線技師の業務拡大に伴い、群馬県診療放射線技師会で行われる下部消化管検査および静脈路の確保等に関する講習会へ講師の派遣を行い、地域の診療放射線技師の技術向上に貢献する。 (5) 国際化研究支援事業 県内診療放射線技師の研究支援事業として、国際学会発表を目的とした講習会等を実施する。
6 放射線測定協力事業 P.18	放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全・安心の提供を図る。
7 教育普及事業 P.19～20	県民向けの公開講座、出前講座及び公開授業等を行い、地域貢献活動を積極的に行う。
8 地域連携推進事業 P.21	本センターの活動を広く県民に周知するために、地域連携センターNews letter及び地域貢献活動報告書を発行する。また、学生ボランティア活動の支援体制の充実に取り組む。
9 健康福祉政策事業 P.22～23	健康福祉政策事業では、群馬県健康福祉部や生活こども部等との情報交換会継続と、マッチングした事業の展開を図る。
10 健康寿命延伸プロジェクト P.24～25	平成28年度政策プレゼン「健康寿命延伸プロジェクトⅡ-ぐんまエクステンションプラン」を展開するため、健康福祉部保健予防課と協働し、「健康寿命延伸シンポジウム」及び「小規模市町村支援事業（榛東村）」、「ぐんま元気エクステンションセミナー」などに取り組む。

看護学教員養成課程

担当者／看護学部 松田教授、山下教授、服部准教授、◎高橋（裕）講師、河内講師

1 事業目的・内容

県内および県外の看護師養成教育機関の看護学教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当者を対象に、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識及び技術を教授する。

本課程は、群馬県委託契約に基づき、大学の企画・運営により看護学教育に携わる人材の育成に関わる事業として取り組んでいる。また、看護学教員の教育実践能力の維持向上に向け、継続的に学び続けられるような体制づくりに努める。

2 実施結果

(1) カリキュラム、授業計画に沿った授業の実施

- ア 実施授業科目 19科目（基礎分野6科目、専門科目13科目）
- イ 総カリキュラム時間数：750時間
- ウ 教育実習
 - 看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）・看護学教育授業展開論Ⅳ（実習）
 - 実施期間：令和3年10月18日（月）～11月19日（金）
 - 本学、および県内看護師養成教育機関において実施

(2) 公開授業

- 看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）：令和3年7月28日（水）・29日（木）（参加者30名）
- 看護学教育授業展開論Ⅲ（演習）：令和4年2月2日（水）（参加者8名）

(3) 令和3年度看護学教員養成課程修了式

- 日程：令和4年3月24日（木）修了生：11名
- 修了後は、看護師養成教育機関の教員または病院の教育担当者として勤務

(4) 厚生労働省「教育訓練給付金制度（一般教育訓練）」指定講座認定：該当者1名

(5) 2021年度看護学教員養成課程学生募集（募集定員20名）

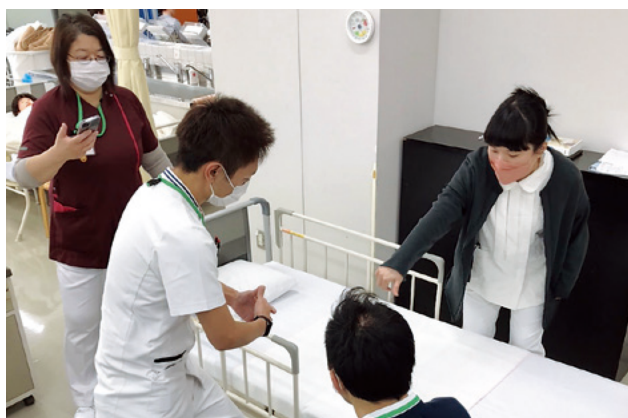
- ア 看護学教員養成課程説明会の実施 7月31日（土）（参加者8名）
- イ 本学ホームページ、上毛新聞、FM群馬に課程生募集の案内掲載
- ウ 看護学教員養成課程の紹介パンフレットを作成し、関東甲信越・東北地方の3年課程看護師養成教育機関への課程生募集の案内送付
- エ 群馬県看護学会にて、県内施設の活動紹介として展示、学生募集の説明実施
- オ 入学者選抜試験：第1次募集 令和3年12月16日（木）
 - 出願者：11名 合格者：10名 入学手続者：10名
 - 第2次募集 令和4年2月17日（木）
 - 出願者：1名 合格者：1名 入学手続者：1名

3 事業成果・効果

本課程は、大学の学習環境を最大限に活用し、学部教育との連携を図りながら授業を提供している。課程生は、本課程独自のカリキュラムに基づき、学習した知識と教育実践とのつながりを持ちながら、1年間学習することを通して、教育実践に必要な能力を修得している。今年度は、新カリキュラムにより時間数が減少したことに伴い、授業開始時期を5月として、時間割を作成し、授業を実施した。課程生全員が目標達成することができ、修了が認められた。修了後は、県内および県外の看護専門学校教員として、また病院での教育担当者として活躍が期待されている。これらを通し、群馬県の看護基礎教育の質向上に貢献している。

4 事業の課題及び改善の方向性

入学者確保に向けて、学生募集活動を強化しているが、近隣の講習会開催やコロナ禍の影響もあり、欠員が生じている。課程の説明会は、開催時期を早めたことにより、参加者の受験につなげることができたため、次年度も、本課程の理解につながる活動を強化していく。今年度は、厚生労働省「専任教員養成講習会ガイドライン」の一部改正に伴い、新カリキュラムによる授業を計画・実施した。しかし、カリキュラム評価を実施した結果、前期授業時間の過密による自己学習時間の不足が課題となった。次年度は、4月開講とし、課程生の自己学習時間を確保しながら授業を計画・実施し、看護学教員養成課程事業の推進を図る。



看護師特定行為研修課程

担当者／看護学部 行田センター長、横山学部長、◎飯田教授、廣瀬教授、清水准教授、金谷准教授、
佐藤講師、佐々木講師、田村助教
診療放射線学部 瀬川教授

1 事業目的・内容

群馬県内の慢性期・在宅医療等のニーズに対応し、チーム医療のキーパーソンとして貢献できる特定行為研修修了者を養成するための研修の機会を提供する。

2 実施結果

(1) 研修の実施

- ア 共通科目 7科目（6科目eラーニング、1科目学内実習）
- イ 区分別科目「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連：気管カニューレの交換」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正」の2区分3行為
- ウ 学内演習・実習等
 - 学内Ⅰ：4月 オリエンテーション、放送大学よりeラーニングの実演等
 - 学内Ⅱ：5月 ICT研修の継続支援、進捗の確認、レポート添削
 - 学内Ⅲ：8・9月（4日間）「特定行為共通科目統合実習」
 - 学内Ⅳ・Ⅴ：9・10月 区分別科目の学内演習・技術練習
 - 学内Ⅵ：10月 区分別科目の実技試験（OSCE）
 - 学内Ⅶ：10月 区分別科目の筆記試験
- エ 臨地実習
 - 11月～2月（16週） 区分別科目の臨地実習
 - 協力施設及び指導者との実習調整、提出課題の添削指導、施設訪問による対面指導

(2) 研修運営委員会

- ア 議事：研修の企画・立案、実施に関する学内調整、実習を行う医療機関等との連絡調整等に関すること
- イ 開催回数：定期開催10回、臨時（持ち回り審議）2回

(3) 研修管理委員会

- ア 議事：研修計画の策定、進捗管理、修了認定に関すること
- イ 開催回数：2回（第1回書面会議：6月、第2回オンライン会議：3月）

(4) 令和4年度受講生の募集・試験

- ア 募集要項の作成、広報活動
- イ 受講希望者事前面談（5月～8月）
- ウ 入学試験：9月 合格者5名（うち訪問看護師4名）

(5) 課程生の所属施設看護管理者を対象とした会議

研修修了者の活動環境の整備についての情報交換：9月

(6) 届出、申請または報告等に関する調整・手続

- ア 新年度の教育内容の改善及び人事異動等に伴う届出：4月
- イ 修了した看護師報告：4月
- ウ 前年度の年次報告：6月

エ 新規の協力施設の届出：11月（4施設）

（7）フォローアップ研修の企画・開催

第1回：8月 症例検討

第2回：3月 今年度の活動報告及び次年度の予定

（8）新たな区分の検討・導入

「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」11月申請、令和4年2月28日変更承認

（9）厚生労働省「教育訓練給付金制度（一般教育訓練）」指定講座の申請

3 事業成果・効果

本課程は2期生を迎え、初めて訪問看護師2名が受講した。本学が併設の医療機関を有していないため、他施設での実習協力を得ての臨地実習を遂行した。学内演習・実習では、感染防止に努めながら、昨年度と同様に充実した学修を展開できた。臨地実習は、感染症の拡大と時期が重なり、課程生自身、指導医、院内スタッフが忙しく、症例確保が大変困難であったが、関係する皆様のご理解とご協力を得られ、期間中に症例確保ができ、実習を終了できた。本課程の第2期生4名が研修管理委員会にて修了認定されたこと、今年度は初めて訪問看護師2名が修了できたことから群馬県内の慢性期医療や在宅医療等のニーズに貢献できたと考える。

1期生へのフォローアップ研修は、第1回を8月の「症例検討」、第2回を3月の学習報告・発表会第2部での「今年度の活動報告及び次年度の予定」とした。修了生のフォローアップ研修の基礎を築くことができたと考える。

また、今年度は、新たな特定行為区分の導入が実現した。協力施設へのアンケートや群馬県が実施した県内医療機関へのアンケート結果、及びコロナ禍にあっても本課程の準備が可能であること等を考慮し「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」を申請、変更承認を得た。令和5年度からの提供となるが、更なる群馬県内の慢性期医療や在宅医療等のニーズへの貢献の準備が整えられたと考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

事業の課題及び改善の方向性は次の4点である。

- ①看護師による活用が注目されているポケットエコーを購入していただいた。次年度フォローアップ研修に組み入れ教材を準備することで、令和5年度の授業導入に向けた準備を行う。
- ②令和5年度から開始する「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の授業準備を行う。
- ③教育訓練給付金制度の「専門実践教育訓練」の申請について検討する。
- ④次の新たな区分の導入について検討を開始する。



県立病院・県内病院連携事業

担当者／看護学部 ◎廣瀬教授、富永講師
診療放射線学部 ◎上原教授、渡部准教授

1 事業目的・内容

4病院が抱える課題について、県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）と県民健康科学大学とが協働して、その解決に向けた連携事業を継続して展開する。

2 実施結果

<看護部門>

(1) 令和3年度連携事業に関する情報共有と確認

- ア 病院局看護人材支援専門官と事業責任者にて電話対応により今年度の事業内容の方向性と進捗状況の情報共有・確認を行った。
- イ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う県営ワクチン接種センターの業務、4病院の医療提供・看護体制整備や再編等による勤務状況を考慮し、共通課題「看護管理コース研修における教育内容の精選」については、各病院の検討事項とし次年度継続課題とした。

(2) 新人看護師の教育体制整備に向けた情報共有

- ア 日 時：令和4年1月25日（火） Zoomにて実施
- イ 出席者：群馬県病院局総務課長・看護人材支援専門官、県立4病院看護部長・副看護部長、教育担当看護師長、看護学部長、地域連携センター長、事業責任者 計17名
- ウ 内容
 - ・コロナ禍で学生時代を過ごした新人看護師の教育体制整備を目的として、新人看護師の傾向と臨床現場の現状、看護大学の教育の現状と課題等について情報共有・意見交換を行った。

(3) 小児医療センター

- ア テーマ：先輩看護職全員による新人看護職教育への参加
- イ 講 師：富永明子講師
- ウ 実施状況： 実施なし

<診療放射線部門>

県立病院へのニーズ調査、大学教員とのマッチング及び来年度の実施に向けた打合せ会議等を適宜実施する予定であったが、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり各病院からの具体的な要望がなかったため実施に至らなかった。

県内病院向け事業として備品の貸出事業についても、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり、研修会等が中止または延期となり備品貸し出し需要はなかった。

3 事業成果・効果

<看護部門>

県立4病院共通課題である「看護管理コース研修の教育内容の精選」については、新型コロナウイルス

感染症拡大の影響により、昨年度に引き続き継続課題とした。一方、新たな課題として、コロナ禍に学生時代を過ごした新人看護師の教育体制の整備を要することが提案された。オンライン会議を開催し、臨床現場と看護基礎教育双方の現状と課題について、情報共有・意見交換を図り、今後の新人看護師の教育支援に向けた具体的内容への示唆を得ることができたと考える。

<診療放射線部門>

備品貸し出しは、県内民間病院等への備品の貸し出しを例年実施してきたが令和3年度も令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もあり研修会や研究会等が中止もしくは延期となりそれに伴って備品貸し出しの要望がなかった。

4 事業の課題及び改善の方向性

<看護部門>

共通事業として、4病院共通ラダーに基づき「看護管理コース研修の教育内容の充実を図る」ことを継続課題として、具体的内容の精選に取り組む予定である。また、新たな課題として「コロナ禍における新人看護師の教育体制の整備の必要性」が確認された。次年度は、新人看護師を対象とした教育支援の実施・評価に基づき、臨床側・大学側で情報共有・意見交換を継続し、教育体制の充実を図るべく協力支援を行っていききたい。

<診療放射線部門>

県立病院との共通事業実施に向けて引き続き県立病院と密に連絡を取り合いながら事業を進めていく必要がある。また、備品貸し出しについては、県内民間病院への適応拡大を実施しているが、コロナ禍で需要は低調である。引き続き保有備品リストの構築を実施していく必要がある。

看護職研究支援事業

担当者／看護学部 ◎上山准教授、橋本准教授、浅見講師、戸谷講師、福島講師、丸澤講師、久保田助教

1 事業目的・内容

県内の医療機関、行政機関、訪問看護事業所、福祉施設等に所属する看護師、保健師、助産師を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を修得するための「看護研究セミナー」を実施する。全セミナーを受講した者に対して研究計画を募集、研究の一連の過程を本学教員が支援する「看護研究個別支援」を実施し、県民の健康の保持・増進を担う県内看護職者の研究活動および看護実践上の課題解決等を支援する。

2 実施結果

(1) 看護研究セミナー ＊新型コロナウイルス感染拡大のため、Web (YouTube オンデマンド)開催とした。

- ア 第1回講義「看護研究計画書の作成」(浅見講師)
- イ 第2回講義「看護研究における倫理と手続き」(橋本講師)
- ウ 第3回講義「看護研究のための文献検索と文献検討」(佐藤講師)

(2) 看護研究個別支援

5グループが申し込み、支援開始前に1グループの辞退がみられた。4グループに対して、支援担当教員を各1名～2名配置して支援を行った。

(3) 看護研究個別支援(継続)

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、看護研究セミナーを中止したため、継続支援の対象はいなかった。

(4) 研究成果報告会

新型コロナウイルス感染拡大のため、Web (YouTube オンデマンド) 開催とした。

3 事業成果・効果

(1) 看護研究セミナー

第1回～3回のセミナーは、5月17日～6月7日の間、Web (YouTube オンデマンド) 開催した。

参加申込者の実人数は66名、施設数は9施設で、県内6保健医療圏の施設から看護職の参加があった。施設種類別の申込者は、病院が8施設65名、訪問看護ステーションが1施設1名であった。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のためか、市町村や事業所からの申し込みはなかった。セミナー別のYouTube視聴回数は、第1回148回、第2回115回、第3回103回であり、複数回視聴されていることがわかった。このような状況の中でも、参加申込者数は例年より多く、県内の看護職者の研究活動支援が行えていると考える。初めてのWeb開催であったが、受講後のアンケート結果では、セミナーを活用できそうかの問いに「とてもそう思う」「そう思う」の回答がほとんどであり、県内の看護職の研究活動の支援ニーズに合致した効果的な内容であったと考える。

(2) 看護研究個別支援

看護研究セミナーの全てを受講した者の中で、研究課題を持ち、個別支援を希望する個人及び小グループを再度募集し、申請のあった5グループの研究テーマと指導教員とのマッチングを行い、辞退のあった1グループを除く4グループに対して個別支援を行った。申請のあった施設は4施設で、全て県内の病院であった。支援教員の個別指導のもと、各施設に就業する看護職者が各々の施設での看護実践の中で抱える問題に着目した研究課題を明確にし、7月から研究活動を進めた。1グループあたり複数回の支援教員の直接指導を行い、その成果をまとめている。研究成果は、院内研究発表会等での発表を予定している。

これらの成果は、それぞれの看護実践での質向上が期待でき、県民の保健医療福祉の充実に貢献する可能性がある。

(3) 看護研究個別支援（継続）

令和2年度は看護研究セミナーが未開催のため、継続支援の該当者はいなかった。

(4) 研究成果報告会

2018年、2019年度の個別支援・継続支援を受けた対象者及びグループの中から、2つのグループ（病院1グループ、市町村1グループ）の研究成果と活動プロセスについて、報告会をWeb（YouTube オンデマンド）開催した。看護研究セミナー申込者66名の成果報告会YouTube視聴回数は、2グループ合わせて128回であった。多くの者が視聴しており、看護研究個別支援の理解につながったと考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大がみられたため、Web（YouTube オンデマンド）にて看護研究セミナー及び看護研究個別支援（新規）、研究成果報告会を開催したところ、例年以上の参加がみられた。本事業の対象は、医療現場の最前線で働く、看護師、助産師、保健師であり、コロナ禍においても研究セミナー等のニーズは高いといえる。次年度は、社会状況に合わせて、ハイブリッド開催等、安全に事業が実施できるような方法を検討することが課題である。

また、Web開催に伴い、セミナー等の申込及び資料をメールに変更したが、印刷困難な参加者も見受けられたため、次年度は郵送等検討したい。

放射線教育・研修事業（放射線治療講習会）

担当者／診療放射線学部 ◎佐々木教授、高田准教授、大野准教授

1 事業目的・内容

「多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」に選定された、筑波大学を中心とした13大学による「関東がん専門医療人養成拠点」事業に沿って、放射線治療教育プログラムのセミナーを開催した。これを通じて、放射線治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高めた。

2 実施結果

(1)「関東がん専門医療人養成拠点」事業への参画

ア 第1回「医学物理学講演会」

開催日：令和3年12月20日 開催場所：Web開催

参加者：県内外の診療放射線技師、医学物理士、機器開発者、学生（186名）

内 容：放射線治療に関する最近の動向を知る

イ 第2回「医学物理学講演会」

開催日：令和4年2月20日 開催場所：Web開催

参加者：県内外の診療放射線技師、医学物理士、機器開発者、学生（221名）

内 容：放射線治療に関する基礎と応用を知る

本年度は新型コロナウイルス感染防止等のため講演会はZoomを用いたWeb開催とした。第1回は放射線治療における線量分布計測の基礎、最近の前立腺癌の放射線治療計画と最近の動向、および動体追尾照射の行える最近機器の原理と導入に関して医学物理士や放射線腫瘍医からの講演を行った。

また、第2回は最近のトピックとして心房細動定位放射線治療の臨床導入とS G R Tの基礎と応用を、さらにデータ解析において避けて通れない不確かさについての講演を行った。幅広い知識を一度に深めることができる機会は少なく貴重な機会となった。

非常に有用で実務にも役立つ内容が多く、知識の再構築に有用と好評であった。

3 事業成果・効果

群馬県内のみならず広域で放射線治療に携わる診療放射線技師、医学物理士、開発者および学生が講演会により知識を吸収し、ディスカッションを通して普遍的な放射線治療の概念と最新の治療技術を知る機会を提供した。本年度は、がんプロフェッショナル基盤養成プランに沿って、最新の放射線治療に関する基礎から応用までを学ぶことによって知識の整理を行い、最近のトピックスである心房細動に対する定位照射などの知識も深めた。県内の医療機関においてこれらの知識を応用されることが期待される。新型コロナウイルス感染症の影響でWeb開催となったが、参加者は大きく増加しており、多くの方に資することができた。放射線治療技術の向上のための講演会は、群馬県で治療を受ける患者の利益につながる有意義な活動である。

4 事業の課題及び改善の方向性

放射線治療に携わる医療従事者の育成については、県がん対策推進条例においても明記されており、専門的な医療従事者の質的向上を図る必要がある。

今後も、「関東がん専門医療人養成拠点」事業への参画や、本学独自のセミナーの開催等を通じ、放射線技術系の基礎教育や継続教育に取り組んでいく。

放射線教育・研修事業（診療放射線技師 CT・MRI 研究会事業）

担当者／診療放射線学部 ◎林准教授、高橋（哲）准教授、川村助教

1 事業目的・内容

県内の診療放射線技師の臨床研究支援事業として、臨床現場における画像診断検査の向上・発展を目的とする研究の推進と発信に必要な方法を討論する研究会を実施する。これらにより、診療放射線技師の発展的な研究を支援し、大学院への進学や臨床研究の推進を導く。さらに臨床研究の推進により医療機関における医療技術の向上や高度医療の提供による県民への医療サービス向上を目指す。

2 実施結果

（主催）第18回健科大CT・MRI研究会の開催

日時：令和3年12月16日にZoomWebinarを用いてWeb開催 申込者数：93名,参加者数：63名

講演1 当直帯における診療放射線技師の役割（頭部領域編）

公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 画像診断課 大川竜也氏

講演2 脳卒中におけるMRI検査を振り返る

群馬大学医学部附属病院 放射線部 佐藤有将氏

（共催）健科大CT・MRI研究会共催で以下の研究会をZoomWebinarで実施

・第14回 群馬Gyro Users Meeting

日時：令和3年7月8日（ZoomWebinar） 申込者数：50名,参加者数50名

・第15回 群馬Gyro Users Meeting

日時：令和4年1月18日（ZoomWebinar） 申込者数：34名,参加者数34名

3 事業成果・効果

第17回健科大CT・MRI研究会では県内の医療機関で勤務する若手（特に20代）の診療放射線技師を対象としたベーシックでかつ重要となる“脳卒中”を対象とした診療放射線技師の役割やMRI検査について、同じく若手目線で何を学ぶべきかを講演できる2名の講師による講演会を企画した。参加者の多くは同世代の本学卒業生であり、卒後教育における本学と卒業生の連携した研究会を実施することができた。研究方法論についてもディスカッションを行い、臨床研究の行い方について議論を重ねた。

また本年度より地域主催のCTやMRIに関連する研究会を共催する事業を追加した。これまで各病院や研究会ごとに告知や会場提供などを行ってきたが、研究会の広報やオンライン化において各研究会や施設ごとではコロナ禍での開催が困難であったことから広報や運営及び講師の派遣などを地域連携センターとしてサポートすることになった。そのなか群馬GyroUsersMeetingのウェビナーの開催を共催で実施した。昨年度はコロナ禍で開催できなかった勉強会を地域連携センターのサポートにより依然と同様に年2回開催することができ、県内の診療放射線技師を中心に臨床の知識及び技術を共有することができた。

4 事業の課題及び改善の方向性

コロナ禍で従来の研究会が実施できなかった県内の研究会を当センターの共催により実施できた。今後は開催を見送っていた他の研究会についても当センターが共催になって開催することで県内の医療従事者が最新の情報や臨床技術等を学ぶことができる場を提供していく予定である。

放射線教育・研修事業（診療放射線技師継続教育等事業）

担当者／診療放射線学部 ◎高橋（哲）准教授、林准教授、渡部准教授、川村助教

1 事業目的・内容

県内診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会等を開催するほか、MRIを用いた共同研究と研修会を実施する。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、疾病の早期発見の機会の増加を図る。

2 実施結果

(1) MRI技術講習会の開催

9月18日にWEBINER形式の講習会を開催した。プログラムは以下のとおり。

- ① 磁気共鳴医学会のMR入門講座講師クラスの方を招いた基礎教育
・ 八杉幸浩 先生（富士フィルムヘルスケア）「MRIのハードウェア解説」
- ② 県内（近県）診療放射線技師による事例報告
・ 大川竜也 氏（美原記念病院）「当院における整形領域MRIの撮像方法～受信Coilの運用を中心に～」
・ 藤生敦哉 氏（桐生厚生総合病院）「MR専門技術者認定試験過去問を実験で読み解く」
・ 茂木俊一 先生（国際医療大学）「骨盤部MRI -基本と押さえておくべきポイント-」

(2) 群馬MR研究会への支援

WEBINER形式の開催を支援した。

(3) CT・MRIに関する他施設との共同研究の実施

桐生厚生病院、伊勢崎市民病院、群馬大学医学部附属病院、美原記念病院それぞれの診療放射線技師と本学の教員（高橋、林）でMRIによる定量化に関する共同研究を実施した。

3 事業成果・効果

今年度は、MRI講習会をZOOM WEBINER形式で開催した。初の試みであったが、対象はこれからMRIを専門的に扱う若手技師を主とし、内容は「基礎から応用まで幅広く学べる」ものとした。参加者数は、県内外から66名で、内容・運営ともに好評であった。

群馬MRI研究会については、WEBINER形式での開催が初めてであったため、本事業にて第1回のZOOM開催（6月30日、参加者数76名）の運営等を支援した。

県内施設との共同研究は、本学診療放射線学部の高橋准教授を中心に磁化率マッピングQSMを用いた定量評価に関する多施設共同研究を継続し、本年度はTeamsを用いて6回打合せを実施した。

4 事業の課題及び改善の方向性

MRI講習会は、県内の診療放射線技師のスキルアップの施策として継続していく。

群馬MR研究会への支援は、引き続き、運営などを支援していく。

他施設との共同研究はQSM共同研究を引き続き発展させて進めていく予定である。

放射線教育・研修事業（群馬県診療放射線技師会講習支援事業）

担当者／診療放射線学部 ◎五十嵐准教授、米持助教

1 事業目的・内容

群馬県診療放射線技師会が開催する講習会等へ講師の派遣を行い、地域の診療放射線技師の技術向上に貢献する。また、関連の講習事業についても開催支援を行い、診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上に貢献する。

2 実施結果

(1) 令和3年厚生労働省告示第273号研修

- ・第1回：令和4年2月19日（土）

開催場所：本学多目的ホールほか

講 師：渋谷 圭先生（群馬大学医学部附属病院）、佐藤正樹講師

ファシリテーター：干川重光先生（太田記念病院）、目崎 聡先生（吾妻脳神経外科循環器科）、櫻井昇
幸先生（群馬県感染症・がん疾病対策課）、丸山 星先生（群馬パース大学）、鈴木
智也先生（公立館林厚生病院）、米持圭太助教

参加人数：38名

- ・第2回：令和4年2月20日（日）

開催場所：本学多目的ホールほか

講 師：熊坂創真先生（群馬大学医学部附属病院）、佐藤正樹講師

ファシリテーター：干川重光先生（太田記念病院）、目崎 聡先生（吾妻脳神経外科循環器科）、櫻井昇
幸先生（群馬県感染症・がん疾病対策課）、丸山 星先生（群馬パース大学）、鈴木
智也先生（公立館林厚生病院）、米持圭太助教

参加人数：37名

内 容：動画視聴、上部消化管実技、下部消化管実技、動脈実技、静脈実技、静脈（核医学・CT・超音波）

※本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐准教授

(2) 令和3年度 群馬県がん検診エックス線撮影従事者講習会

- ・第1回：令和3年10月12日（火）

演 題：『乳がん検診の現状とマンモグラフィの最新情報』

講 師：新井敏子先生（ぐんまマンモグラフィ向上委員会）

演 題：『マンモグラフィ ポジショニングの基本』

講 師：長島純子先生（ぐんまマンモグラフィ向上委員会）

参加人数：28名

- ・第2回：令和3年11月9日（火）

演 題：『肺癌と悪性中皮腫の診療～最近のトレンドと課題』

講 師：瀬川篤記教授

参加人数：27名

- ・第3回：令和3年12月7日（火）

演 題：『胃がん検診発見症例の詳説』

講 師：茂本文孝先生（（公財）群馬県健康づくり財団診療所 院長）

参加人数：23名

I-2. 事業報告

会 場：本学多目的ホール

※第3回のみ（公財）群馬県健康づくり財団 6階 大会議室

※本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐博准教授、米持圭太助教

(3) 診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー

開催日：令和3年9月26日（日）

開催方法：Web（本学Teams使用）

講 師：後閑隆之先生（群馬県診療放射線技師会）、

青木里佳先生（医療法人石井会 渋川伊香保分院）、米持圭太助教

参加人数：12名

※本学からの支援（受付等）：五十嵐博准教授

(4) 第1回群馬県 臨床検査技師 診療放射線技師 合同勉強会

開催日：令和3年11月4日（木）

開催場所：本学大講義室

演 題『乳腺画像を極めるvol.1～画像を読むための第一歩～』

講 師：吉田人美先生（みさと診療所）、有馬ひとみ先生（前橋赤十字病院）

参加人数：105名

※本学からの支援（会場運営等）：五十嵐博准教授、米持圭太助教

3 事業成果・効果

群馬県診療放射線技師会が開催する講習会等に講師を派遣し、群馬県内外の技術レベルの向上に寄与することができた。令和3年度から「令和3年厚生労働省告示第273号研修」が新規事業となり、2回開催することができた。また、がん検診エックス線撮影従事者講習会等の開催にも協力することで、県内のがん検診に従事する診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上についても活動することができた。

4 事業の課題及び改善の方向性

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、会場型の講習会開催において感染防止対策を講じた。また、令和3年度から新規事業として「令和3年厚生労働省告示第273号研修」がはじまった。この事業についても、本学から講師派遣や会場提供等できるように関係団体と調整を進めていく。

放射線教育・研修事業（国際化研究支援事業）

担当者／診療放射線学部 ◎小倉（敏）教授、渡部准教授

1 事業目的・内容

県内診療放射線技師の研究支援事業として、国際学会発表を目的とした講習会等を実施する。これらにより、県内の診療放射線技師が海外に研究内容を発信し、世界レベルのディスカッションが可能となるように、サポートすることにより、県内の医療がより発展することが期待できる。

【具体的な取組み】

- (1) 本学で行っている国際発表研究の紹介
- (2) 国際学会の申請の方法
- (3) 国際学会のスライド作成法・発表方法の講演

2 実施結果

国際化研究支援講演会の開催

診療放射線学部国際化研究支援セミナーを開催した。

開催日：令和3年10月22日（金）

会 場：本学多目的ホール

講 師：新潟大学 佐藤 充先生

テーマ：国際学会・国際誌への投稿てびき

3 事業成果・効果

新型コロナウイルス感染症の流行拡大のため、開催の機会がなかなか得られなかったが、流行の谷間に対面で開催できたことは良かった。

4 事業の課題及び改善の方向性

県内の診療放射線技師等の研究支援事業として、国際的視野を身につけるための講習会を行った。国際学会・国際誌への投稿てびきについて経験豊富な佐藤先生に講演していただいた。今年度も新型コロナウイルス感染症の流行状況を見ながら健科大にて、多くの方が世界を視野に入れた活動ができるよう、講師を迎えて講習会を開く予定です。



放射線測定協力事業

担当者／診療放射線学部 原教授、◎杉野准教授

1 事業目的・内容

放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全安心の提供を図る。

2 実施結果

【空間線量率測定結果の評価】

- (1) 赤城山中腹に設置された木質バイオマス発電所周辺の地域住民に安全と安心を提供するため、前橋市環境部環境森林課が空間線量率測定を4回（5、8、11、2月）実施した。その測定結果について監修および評価を行い、報告書を提出した。測定結果は前橋市のHPで公開されている。
- (2) みどり市の住民に安全と安心を提供するため、みどり市生活環境課が小中学校、公園等の施設計47箇所の空間線量率測定を3回（5、9、1月）実施した。その測定結果について監修および評価を行い、報告書を提出した。測定結果はみどり市のHPで公開されている。
- (3) 毎年、川場村で行われている世田谷区小学5年生の移動教室に先立ち、川場村むらづくり振興課が宿泊施設およびキャンプ場等の空間線量率測定を行った（2021年12月）。その測定結果に基づいて線量評価を行い、報告書を提出した。報告書は、世田谷区教育委員会が行う「川場村移動教室説明会」において、世田谷区内の小学5年生の保護者全員に配付される予定である。

3 事業成果・効果

今年度は、バイオマス発電所が本格的に稼働して4年目の空間線量率測定となった。発電所周辺の空間線量率について、稼働前と稼働後の測定値に差異がないことを確認し、地域住民に安全性を示すことができた。稼働前、地域住民から多くの心配と苦情が前橋市に寄せられていたが現在はほとんどなくなったとのことである。みどり市については、4カ月に1回、47施設において空間線量率測定が実施され、その結果について報告書を提出した。年間を通じて測定値に大きな変動はなく、住民からの質問等もない状況である。川場村については、世田谷区の移動教室で利用する宿泊施設やキャンプ場、ハイキングコース等において、2021年12月に空間線量率測定が実施されたが、測定結果は2021年1月とほぼ同様で問題はなかった。測定結果に基づいて作成した報告書を2022年2月に川場村へ提出した。今後も線量評価の依頼があった自治体については、専門的な立場から測定結果に対してのコメントを提示するとともに、各自治体のHPや説明会等を通じて公表し、住民に安全と安心を提供する。

4 事業の課題及び改善の方向性

東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機に、原発由来の放射性物質に対する県民の不安解消の一助となるような活動を計画し遂行した。今後も環境中の放射線および放射能に関わる様々な疑問にお応えし、県民の不安や心配の解消に繋がるための活動を続けていく。また、自治体および市民団体等より、放射線・放射能に関する研修会、講演会等の要望があった際には、基礎的な知識獲得の支援や原発事故前後の県内の放射線量率の変動などについて情報を提供する。これらにより、県民が正しい情報の理解を進めることができ、ひいては県民および地域の方々の安心感に繋がるものと考えている。

教育普及事業

担当者／看護学部 石川教授、鵜生川准教授、小西講師、中川助教

診療放射線学部 ◎青木教授、大崎准教授、寺下准教授、西村助手

1 事業目的・内容

主にこれまで実施してきた県民を対象とした公開講座や講演会等の事業を引き続き行い、地域貢献活動を積極的に行う。

2 実施結果

(1) 公開講座の開催（本学主催の県民を対象とした講座）

第1回公開講座 『これで分かる、新型コロナウイルス感染症の最新情報』

令和3年9月15日（水）～10月15日（金） YouTubeで公開した。

【講師】共愛学園前橋国際大学短期大学部 生活学科栄養専攻 教授

栗原修一先生

申込者数：46名、視聴回数：75回

受講者の意見

- ・ COVID-19の情報が世の中に溢れている中で、前に保健所で働いていた方にお話を聞くことで、自分の中で情報を整理することができた。
- ・ 専門的なお話が、大変参考になりました。今後の指導に生かしていきたいと思います。
- ・ 講座の内容は興味深かった。SARSやMARSはワクチンも治療薬もないが、今回の新型コロナではワクチンも治療薬も出てきているのにこれだけ広まってしまったため、対策をしっかりとることが重要だと実感した。

第2回公開講座 『手・足・口を使った頭の体操で脳を活性化しよう！』

公開期間 令和4年3月9日（水）～3月29日（火） YouTubeで公開した。

【講師】本学看護学部 講師福島昌子先生、講師樋口友紀先生

申込者数：101件 視聴回数：①知識編 189回 ②実践編 178回 ①②合計 367回

- ・ とてもわかり易い内容になっていました。認知症の理解と予防策が判りやすかった。
- ・ 大変参考になりました。職場で利用者さんと一緒に行ってみたいと思います。
- ・ オンラインで、自分の都合に合わせて視聴できました。わかりやすく知識を学べ、楽しく体操できて良かったです。学生さん達と一緒に講義を楽しめたような気がしました。
- ・ オンラインで受講できて良かった。
- ・ 体操などは簡単ですぐに実践しやすいものでよかった。資料などもあればよかったと思う。

(2) 出前講座

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年4月1日～令和3年5月20日までは中止。令和3年5月21日より受付再開とした。

実施件数：11件

参加人数：780名

(3) 公開授業（県民を対象とした本学学部授業の公開）

新型コロナウイルス感染症対策のため中止

3 事業成果・効果

県立大学として求められる水準にふさわしい公開講座となるように、毎年度企画立案をしている。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためYouTube（オンデマンド形式）で実施した。

第1回講座では、県内保健福祉事務所長の経験を有する講師をお迎えし、新型コロナウイルス感染症に関する情報や公衆衛生を担う現場の声について解説いただいた。

第2回講座では、認知症に関する知識や自宅で簡単にできる体操について本学看護学部の教員から紹介し、好評を得た。

また出前講座は、対面だけでなくリモートも活用しながら継続的に実施し、合計780名の県民の方にご参加いただいた。

本事業は、上記のような公開講座や出前講座、公開授業の実施を通じ広く県民に本学の教育活動や教員が実施する研究を理解していただくものであると同時に、県立大学としての存在意義を再認識していただくために重要な事業である。

4 事業の課題及び改善の方向性

大学機能として地域貢献活動を盛り込んだ改正学校教育法の趣旨を鑑み、医療専門職だけでなく、地域住民をはじめ多くの県民の皆様には、大学の知的財産を還元することが要請されている。本学では、これまでどおり、公開講座や講演会に加えて、要請の多い出前講座等にも新たなメニューを加えながら活動を行い、地域貢献活動を積極的に実施すると共に、県民の皆様には、法人化の利点を生かしながら、今以上に出張講座を活用いただけるよう、要望のあった様々なテーマで公開講座を企画するとともに、大学の現状や卒業生の活躍の広報も含め、他委員会と共により広範な広報活動に力を入れる必要がある。

地域連携推進事業

担当者／看護学部 ◎狩野教授、高井教授、大川准教授、益子講師、久保講師、垣上講師、中野講師、樋口講師、橋爪講師、鈴木（恵）講師、生方講師、高橋（美）講師、高橋（佳）助教
診療放射線学部 原教授、長島准教授、川村助教、西村助手

1 事業目的・内容

本センターの活動を広く県民に知っていただくために、地域連携センターNewsletter及び地域貢献活動報告書を発行する。また、学生ボランティア活動の支援体制の充実に取り組む。

2 実施結果

(1) 地域連携センターNewsletterの発行

- ア Vol.9／No.1 7月発行 報告：令和2年度国家試験両学部全員合格、大学院生・修了生の学会賞受賞
- イ Vol.9／No.2 11月発行 報告：県営ワクチンセンター接種業務に看護学部教員・院生ら延べ215名従事、山本一太知事と学生の意見交換会、MRI技術講習会、学生による人命救助活動、ほか
- ウ Vol.9／No.3 3月発行 報告：コロナ禍における本学地域貢献活動の工夫、榛東村認知症サポーター・ステップアップ研修の開催、ほか

(2) 令和2年度の地域貢献活動報告書の発行

(3) 学生ボランティア

新型コロナウイルス感染症のため、一部病院行事の参加以外は中止となった。

(4) 他大学との連携

- ア 群馬県の16大学（高専を含む）連携「ダイバーシティ連携地域ネットワーク会議」へ参加した。
- イ 「めぶく。プラットフォーム前橋」の活動に参加し、市内5大学PR動画の作成やWeb共同公開講座の公開を行った。

(5) 地域連携センターリーフレットの発行

3 事業成果・効果

地域連携センターNewsletterや地域貢献活動報告書の発行により、本センターの活動を広く県民の皆さまに紹介することができた。特にNewsletterでは、県営ワクチンセンター接種業務への参加など、新型コロナウイルス感染症対策に向けて、県庁担当部局や県内医療機関、他大学教職員とともに本学教職員や学生らが活躍する様子について、詳しく情報を発信することができた。

新型コロナウイルス感染症のため、今年度も学生ボランティアの参加はほとんど中止となったが、十分な感染対策を講じた上で今後の活動再開判断を行い、学生のボランティアへの積極的な参加を促し、活動を通じて地域に貢献したいと考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症のため、学生ボランティア活動をはじめ、様々な地域貢献活動が開催方法の大幅な変更や中止を余儀なくされた。対面での交流が困難な状況下では、地域連携活動の大きな推進は困難であるが、Webサービスを活用した活動や交流を検討するなど、各事業が継続できるよう工夫したい。また、不自由で不安の大きい新型感染症の流行下であっても、本学教職員や学生らの地域貢献活動の様子を積極的に発信していくことで、県民の皆さまに希望を与え、本学に対する期待を高めていただけるようにしたいと考える。

健康福祉政策事業（健康福祉部、生活こども部等）

担当者／看護学部 ◎行田センター長
診療放射線学部 高橋（哲）准教授、米持助教

1 事業目的・内容

群馬県健康福祉部や生活こども部等と情報交換を行い、マッチングした事業の展開を図る。

- (1) 認知症サポーター養成支援（要請に応じて展開）
- (2) 県民の健康福祉施策の実現に向けた事業の協働展開
- (3) 県民の健康福祉に向けた施策の立案に必要なデータの分析、活用に係る調査研究等

2 実施結果

(1) 認知症サポーター養成支援

- ア 認知症サポーター・ステップアップ研修教材を大学HPに提示
(ア) 再生回数600件（H29年度より）
- イ 小規模町村支援事業モデル地区の榛東村にて研修会を開催
(ア) 担当者：狩野教授
(イ) 実施状況：榛東村村民（23人）

(2) 県民の健康福祉施策の実現に向けた事業の協働展開

- ア 子育て講座プログラム政策・普及への協力【継続】
「ぐんまの親子仲良しこよし子育て講座」乳児編のプログラムは、生活こども部児童福祉・青少年課母子保健係と次年度以降検討
- イ 健康長寿社会づくり推進課主催「若い世代の食育推進協議会」への参加【継続】
(ア) 担当者：塩ノ谷講師
(イ) 実施状況：県内7大学教員と学生による協議会に出席
- ウ 「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」
平成29年度より群馬県保健福祉事務所（10施設）に簡易半導体測定器を配布。現在も配布した測定器を使用したX線装置の日常的な精度管理を継続。精度管理の継続的な支援を実施。
(ア) 担当者：高橋（哲）准教授、米持助教

(3) 県民の健康福祉に向けた施策の立案に必要なデータの分析、活用にかかる調査研究等

令和3年度は、健康福祉部との情報交換会は実施されなかった。

(4) 新型コロナウイルスワクチン接種事業【新規・臨時】

県営ワクチン接種センター（東毛・県央）において、5月28日～9月29日の期間、接種前の問診や接種後の観察業務等を行い、延べ215人が従事した。

(5) 准看護師再教育

健康福祉部医務課の依頼により、准看護師再教育を実施した。
講師：山下教授、大川准教授、清水准教授、戸谷講師

3 事業成果・効果

「認知症サポーター養成支援」

平成29年度に開発した認知症サポーター・ステップアップ研修教材を大学ホームページに公開している。これにより、認知症の人々を支える地域づくりの知識の普及に繋がっており、今年度は小規模町村支援事業モデル地区から依頼があり研修依頼も続いている。

「若い世代の食育推進協議会」参加

教員及び学生が会議に参加し、協議内容を共有できた。

「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」

群馬県保健福祉事務所（10施設）に配布した簡易半導体測定器（10台）によるX線装置の日常的な精度管理を継続することにより、各保健福祉事務所におけるX線装置の日常的な精度管理方法確立することが可能となった。

「新型コロナウイルスワクチン接種事業」

新型コロナウイルス感染拡大を受け、県営ワクチン接種センターが設置されることになり、設置当初より教職員が開設準備に携わり、開設後は看護学部教員が中心となりワクチン接種業務に従事した。

4 事業の課題及び改善の方向性

「認知症サポーター養成支援」については、ホームページに公開した支援教材を広く活用して頂くことにより認知症サポーター養成を支援するとともに、可能な限り社会の要請に対応していく。

「ぐんまの親子 仲良しこよし 子育て講座」プログラム作成については、母子保健係と連携して取り組み完成を目指す。また、本学教員が子育て講座のトレーナー研修等を企画、運営し、市町村の保健師等に講義を実施していく。

「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」については、精度管理の支援を継続する。また、定期的な測定器の校正を実施すること、組織化により多くの施設に発展・普及させることが今後の課題である。

健康福祉政策事業は、関連部門との情報交換に基づき、課題の重要性や取組の必要性に応じて、今回の新型コロナウイルスワクチン接種事業のように、急遽発足し展開するという実態がある。教育・研究・地域貢献という3つのバランスをとりつつ、県民の健康福祉に資する活動を計画的に展開できるように、各部門と調整していく必要がある。

健康寿命延伸プロジェクト

担当者／看護学部 ◎大澤(真) 教授、宮崎教授、狩野教授、清水准教授、塩ノ谷講師、鈴木(美) 講師、坪井講師、佐藤講師、大澤(康) 助教、鈴木(峰) 助教
診療放射線学部 瀬川教授、長島准教授、大野准教授、佐藤准教授

1 事業目的・内容

平成28年度政策プレゼン「健康寿命延伸プロジェクトⅡ-ぐんまエクステンションプラン」に基づき、県民の健康寿命延伸を目指した事業に取り組む。

具体的には、群馬県健康福祉部との協働により、地域の実態把握・課題分析・健康課題の明確化、調査研究・実践プログラムの企画及び実施、人材育成等について、科学的根拠に基づいた健康づくり対策を展開する。

1 県健康長寿社会づくり推進課との共催による「元気に動こう・歩こうプロジェクト」の推進

(1) ぐんま元気の5カ条は第1条の実践から」における「実践フォーラム」等イベントの開催を企画、実施する。

2 県内市町村との共催による「健康寿命延伸シンポジウム」の開催

(1) 県内のシンポジウム未実施市町村との共催によりシンポジウムを企画、開催する。

3 小規模町村支援事業のモデル地区として選定した榛東村の健康づくり対策に対する協力

(1) 村の要望を踏まえ、健診データの分析や健康づくりのための具体策を検討する。

(2) 身体活動量計を活用した研究を推進する。

(3) 保健福祉計画策定等に委員として参画、有識者の立場から発言する。

4 館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力

(1) プラットホーム会議及び専門委員会において、専門的な立場から同市の健康寿命延伸に関する提言を行う。

5 小中学生保護者会向けの講演会等で活用できる生活習慣改善のための健康教育教材の開発

(1) 教材の暫定版を小中学生保護者会向けの講演会等で使用し、教材の完成を目指す。

6 群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業に対する取り組み

(1) 施設利用者を対象として収集したデータ分析をすすめ、施設が実施している健康教室の心身への影響について、心理的指標及び生理的指標を用いて検証する。

7 沼田市「スマートウェルネスめまた推進事業」への協力

(1) 身体活動量測定、アンケート調査等のデータ分析・活用方法等について協力する。

8 「ぐんま元気エクステンションセミナー」の開催

(1) 出前なんでも講座登録時に「健康寿命延伸プログラム」と明示した16講座を「ぐんま元気エクステンションセミナー」として開催する。

2 実施結果

1 (1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施を見送った。

2 (1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年度中に企画ができず見送った。

3 (1) 新規事業「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施」について村と協議し、健康課題を明確にするための健診データの分析方法や実践の具体策を検討した。

(2) 研究のデータについて、12月現在までに54名分が収集できたため、データ分析を行った。引き続きデータ収集を継続した。

(3) 保健福祉計画策定等に委員として参画、有識者の立場から発言した。

4 (1) 当該年度の事業実施実績なし。(令和3年12月に会議が計画されたが、中止となった)

- 5 (1) 新型コロナウイルス感染症の影響で今後のPTA活動が見通せないため、教材の内容を中高生向けに改編し、「めぶく。プラットフォーム前橋」のWeb講座として配信した。本事業はこれを持って終了とする。
- 6 (1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、見送った。
- 7 (1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年度中に企画ができず見送った。
※R4年度以降は、沼田市の要望に応じて実施する予定である。
- 8 (1) 合計6件のセミナーを開催した。

3 事業成果・効果

新型コロナウイルスの感染拡大が、令和2年度に続き、令和3年度も健康寿命延伸プロジェクトの実施に大きく影響をあたえ、多くの事業が実施できない状況であった。実施できた事業は少なかったが、成果・効果は以下のとおりである。

小規模町村支援事業による榛東村に対する取り組みとして、新規事業である「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施」を開始することができた。今後村の保健と介護関係のデータを統合させた分析を行うことで、村の健康課題を明確にし、新たな事業計画を検討する。また出前なんでも講座については、3件と件数は少なかったが、県民の健康寿命延伸に貢献することができた。

4 事業の課題及び改善の方向性

1の元気に動こう・歩こうプロジェクトについては、次年度も引き続き、群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課と共催の共催により、県民の健康寿命延伸に向けた効果的な事業を企画、実施する。

2の「健康寿命延伸シンポジウム」については、「ぐんま元気の5か条」の普及啓発に向けて、引き続き群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課との協働により、効果的なイベントになるように開催していくことが課題である。

3の榛東村に対する小規模町村支援については、引き続き村の要望を踏まえ協議していく。また新規に開始した事業である「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施」については、村の保健と介護に関するデータを統合させた解析に協力し、村での効果的な事業計画に策定に協力する。また身体活動量計データを活用した共同研究をさらに進めることが課題である。

4の館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力については、引き続き健康寿命延伸プラットフォーム会議の構成員及び専門委員会の「生きがいづくり及び情報発信に関する専門委員会」の委員として協力する。

5の小中学生保護者会向けの講演会等で活用できる生活習慣改善のための健康教育教材の開発については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できなかった。しかしこれまでの継続により一定の効果が得られたため、令和3年度をもって事業を終了する。

6の群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業については、新型コロナウイルスの感染拡大により閉鎖されている温水プールが再開後、プールでのデータ収集を継続し、収集したデータの分析を進め、研究成果としてまとめる。

7の沼田市「スマートウエルネスめまた推進事業」への協力については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業の実施はできなかった。しかし民間企業等の協賛などにより沼田市が単独での事業運営ができる環境が整備できたため、令和3年度で本事業は終了する。今後は沼田市からの要望が出た際に対応していく。

8の「ぐんま元気エクステンションセミナー」については、今後も出前なんでも講座登録時に「健康寿命延伸プログラム」と明示した講座について、「ぐんま元気エクステンションセミナー」として開催する。令和3年度は、新型コロナ感染拡大の影響により、6件と少なかったが、次年度も新型コロナウイルス感染症の感染収束状況を踏まえ取り組んでいく。

ピックアップ

出前講義

【健康寿命延伸プログラム】

「高齢者に多い入浴の事故」

本学看護学部 准教授 大川美千代

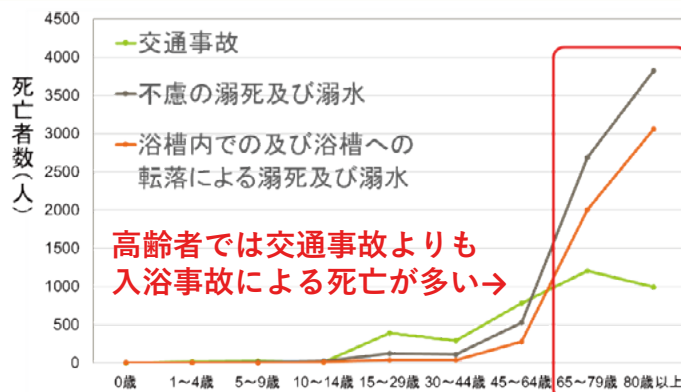
講師 高橋美穂子

- 概要 要：本講座「高齢者に多い入浴事故」は、県内で生活する高齢者を対象にした健康寿命延伸プログラムになります。入浴により生じる身体の反応や入浴事故のメカニズム、群馬県内で発生した入浴事故等をご紹介します。ご自身の入浴方法について振り返る機会にさせていただき、入浴事故の予防に向けた動機づけや対応策の一助になることを目指しています。
- 実施状況：令和3年度は高齢者の入浴支援に関わる医療・福祉関係の方に説明しました。これまでも入浴介助の際に気をつけていた内容だったが、その根拠や必要性を改めて確認することができた、入浴時の水分補給が大切だとわかったなどの感想をいただきました。

<主な講演内容>

- ・入浴による身体への影響
- ・入浴事故の発生状況
- ・群馬県の入浴事故の傾向
- ・心臓に負担の少ない入浴方法
- ・入浴事故を予防するための対策

不慮の事故による死因別にみた
年齢(5歳階級)別死亡数(令和3年人口動態統計)



入浴事故を予防するための対策

- ◆入浴の時間と順番を調整する
 - ・運動や食事は入浴する1時間前に済ませる
 - ・体調のすぐれない時やアルコール飲酒直後、睡眠導入剤内服後は入浴を避ける
- ◆入浴中・後は、のぼせ・熱中症症状に注意する
 - ・入浴前後にコップ1杯の水分摂取で脱水を予防する
 - ・入浴後は30分くらい安静をとる
- ◆寒い時期は、脱衣所と浴室を入浴前に温める
- ◆湯の温度は38~41℃、入浴時間は10分程度にする
- ◆掛け湯をして身体を湯温になじませる
- ◆半身浴で心臓の負担を減らす
- ◆浴槽から立ち上がる時はゆっくり動く(滑り止めの使用)



群馬県立県民健康科学大学

Vol.9/No.1 2021.7

地域連携センター Newsletter

ごあいさつ

群馬県立県民健康科学大学 学長就任にあたって

群馬県立県民健康科学大学 学長 柏倉 健一

4月から学長に就任いたしました柏倉(かしくら)です。

簡単に自己紹介をいたします。私は、高度成長期が始まる頃に横浜で生まれ、育ちました。大学、社会人と文系でしたが、20代で進路変更し診療放射線技師の道を歩み始めました。大学病院に勤務後、米国に留学し、修士課程を修了して帰国。秋田、福井の研究所で研究員として勤務の後に、群馬県立医療短大に招かれました。豊かな自然と人情と食に恵まれたこの地をとっても気に入っております。



本学は、群馬県立看護学院と群馬県立診療エックス線技師養成所をルーツとし、県立福祉大学校、県立医療短期大学を経て、杉森初代学長のもと、平成17年に4年制大学として開学しました。現在、学士号、修士号、博士号の3つの学位を授与できる大学として着実に歩んでいます。例えば、看護師、保健師、診療放射線技師の国家試験で2年連続新卒者全員合格を達成したように、教員の熱心な指導とこれに応える学生の頑張り、少人数教育を機能させる様々な仕組みが、教育における本学の大きな特徴となっております。

本学は、建学の基本理念として、優れた保健師、看護師、診療放射線技師の養成及び研究成果を地域に還元して地域の保健・医療・福祉環境の更なる向上に寄与することを掲げています。この理念の達成に向けて、主体性と協働性を併せ持ち、保健医療福祉分野そして地域社会のリーダーとして活躍できる人材の育成に鋭意取り組んでいく所存です。

公開講座

オンラインにより3回開催します

【テーマ】保健所の役割と新型コロナウイルス感染症対策で変化した業務のリアルについて(仮題)

【テーマ】自宅でできる運動について(仮題)

【テーマ】認知症予防、高齢者転倒予防に向けた体づくり

【申込方法】日程・申し込み方法など、詳しくは本学のホームページをご覧ください



報 告

【令和2年度 国家試験 全員合格】

本年2月に実施された第107回保健師国家試験、第110回看護師国家試験、第73回診療放射線技師国家試験の合格発表が3月23日と3月26日にあり、受験した本学4年生が全員合格しました！（合格率100%）

★合格率100%を達成したのは、令和元年度卒業生に引き続き2年連続の快挙です！



【診療放射線学研究科学生の学会賞受賞について】

診療放射線学研究科 教授 佐々木 浩二

新型コロナウイルスの広がりが研究にも影響を及ぼしている中、本学大学院生が第77回日本放射線技術学会総会学術大会において令和2年度に研究を行った成果を発表しました。その結果、博士前期課程を令和2年度で修了した五十公野康宏さんがGold Awardを、博士前期課程2年の吉田達也さんがSilver Awardを、そして博士後期課程3年の津野隼人さんがBronze Awardをそれぞれ受賞されました。日本全国の研究者が研究成果を発表する学会で3名が受賞されたことはとても誇れることです。社会人大学院生として仕事との両立を図りながら研究を継続した成果が評価されたことは非常にうれしいことです。今後も医療に貢献できる研究成果を発信していきます。



五十公野康宏さん



吉田達也さん



津野隼人さん

【県営ワクチン接種センターで業務を行っています】

群馬県からの要請を受け、本学看護学部教員有志が県営ワクチン接種センターで問診や接種後の観察業務に従事しています。

5月の試験運用期間から6月末現在で、東毛・県央センター合わせて延べ25名の看護教員が担当しました。今後は9月末まで交代で担当し、県民の皆さまや関係各位と力を合わせ、全県早期接種完了を目指します！



お知らせ

WEB オープンキャンパスを開催します！

昨年に引き続き、今年もWEBオープンキャンパス（個別相談・動画視聴）を開催します。ご希望の方は、本学ホームページよりお申し込みください。たくさんの皆さんの参加をお待ちしています！

【個別相談】

申込期間：7月12日（月）13:00～7月20日（火）13:00

実施日：8月2日（月）～8月6日（金）の5日間

【動画視聴】

申込期間：7月12日（月）13:00～8月20日（金）13:00

視聴期間：8月1日（日）～9月30日（木）



（本学HPのQRコード）



発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター
TEL：027-235-1211 FAX：027-235-2501

〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
URL：<http://www.gchs.ac.jp/>



地域連携センター Newsletter

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症禍における地域貢献の模索

地域連携センター長 行田 智子

4月より地域連携センター長になりました行田智子です。本センターは10年目を迎えました。これも皆様のセンター事業へのご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

現在、センターでは10事業を展開しております。昨年度からのコロナ禍の中、事業の展開方法を模索しながら取り組んでおります。「看護師特定行為研修課程」と「看護学教員養成課程」の2事業は感染対策を行いながら、学内にて対面授業や演習等を実施しております。また、県民向けの公開講座や専門職を対象とした研修会等はWebを活用し、多くの皆様にご参加頂けるようにいたしました。今後もセンターの役割を果たすように取り組んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



活動紹介

全国屈指！ 群馬県のワクチン接種の加速に貢献しました



5月の試験運用から9月末まで、本学看護学部教員、大学院生等、延べ215名が、東毛・県央県営ワクチン接種センターにて、問診及び接種後の健康観察業務に従事しました。県内の医師・歯科医師・薬剤師・臨床検査技師・事務担当者など多職種の皆さんと力を合わせ、9月末現在で全国トップクラスとなる6割を超える県民の接種完了に貢献いたしました。接種会場では、本学の卒業生や他大学の先生方、実習でお世話になっている病院の皆さまと一緒に業務にあたり、親交を深めることもできました。

これからも様々な形で県民の皆さまの安全・安心に向けて貢献して参ります！



報 告

【山本一太 群馬県知事が初来学 両学部学生と意見交換をしました】

6月30日、本学の設置者である群馬県の山本一太知事が初めて本学を視察しました。

今回の視察は、4月に新しく学長に就任した柏倉学長が、新任のご挨拶とあわせ、本学が2年連続して国家試験（看護師、保健師及び診療放射線技師）の合格率100%を達成したことを山本知事にご報告したことをきっかけに実現したものです。

当日は、本学の診療放射線関係の施設や看護技術学の実習の様子を視察していただいたのち、看護、診療放射線両学部あわせて10人の学生と意見交換を行いました。

学生との意見交換では、山本知事は学生の話に熱心に耳を傾けていただくとともに、県の新型コロナウイルス対策のほか、これからの学生に求められることや県民幸福度の向上などについて、学生に熱く語っていただき、学生も知事のお話に大いに刺激を受けた様子でした。



【診療放射線技師継続教育等事業 MRI技術講習会を開催しました】

診療放射線学部 准教授 高橋哲彦

9月18日（土）に、「MRI技術講習会」をWEBで開催しました。この会は、診療放射線技師の継続教育として実習形式で毎年開催してきましたが、昨年はコロナ禍の影響で中止となり、今回は2年ぶり、企画を講義形式としました。対象は、これからMRIを専門的に扱おうという若手技師を主とし、内容を、基調講演と事例報告の4演題としました。

当日は、病院に勤務する診療放射線技師を主として県内外から66名の参加を得、参加者からは、「基礎から応用まで幅広く学べた」と好評でした。今後も、県内の診療放射線技師のスキルアップを支援してまいります。



講師 八杉幸浩 氏 茂木俊一 氏

【看護学部学生による人命救助活動のご報告】

去る2月に、アルバイト中の本学看護学部学生2名が倒れているお客さんに心臓マッサージやAEDを実施するなど、人命救助活動を行いました。大学内で学生による報告会を開催し、救助活動の様子や消防署長さんからの礼状、無事回復された方のご家族様からの礼状が披露されました。日頃の学習成果を活用し、勇気を持って人命救助にあたった学生からの報告を、教職員一同、嬉しく、誇らしく聴き入りました。

写真：（左から）看護学部4年生 石原康輝さん、出羽澤開さん
「人命救助に貢献できた経験と自信を胸に、これからも頑張ります！」



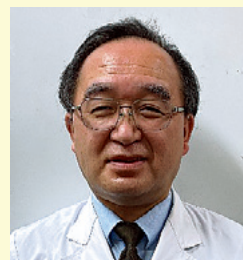
地域連携センター Newsletter

特集：コロナ禍における地域貢献活動の工夫

【コロナ禍における本学の地域貢献活動の工夫 ー オンライン型の公開講座を開催して ー】

教育普及事業責任者 診療放射線学部 青木 武生

令和2年度から令和3年度はコロナ禍の影響で地域貢献活動の多くが中止となりましたが、何とか公開講座だけでもWeb開催をしたいと考え、関係教職員で協議しました。今最も関心のあるテーマとして感染症対策を選び、診療放射線学部教授の瀬川篤記先生には対策の基本的概念、看護学部講師の戸谷幸佳先生には日常生活における知識について、分かりやすい動画講義を制作して頂きました。最終的には、「感染症対策これだけは！」と題して、令和3年1月27日～2月28日の間にYoutubeで公開し、合計300回以上再生されました。



令和3年度も公開講座はWeb開催とし、「これで分かる、新型コロナウイルス感染症の最新情報」と題して、共愛学園前橋国際大学短期大学部教授(元太田保健所所長)の栗原修一先生にご講演頂き、収録動画を9月15日から10月15日まで公開しました。

家庭用ビデオを用いた動画収録では、音声や画像解像度に問題があり受講者の皆さんにご不自由をおかけしましたが、現在は数台のパソコンを用いるなどの工夫により、鮮明な画像と音声での収録が可能となっています。

講義動画 (Web動画より)



共愛学園前橋国際大学短期大学部
生活学科栄養専攻 教授
栗原修一 先生

<受講された方々のご意見・ご感想>

ー アンケート結果より抜粋 ー

- ・ 時間のある時に余裕をもって視聴できた。
- ・ 感染のリスクが下がるので安心して参加できた。
- ・ 新型コロナウイルスの情報が過多となっている昨今において情報の整理ができた。
- ・ 様々と変化しているコロナ情勢についてスライドやグラフにより説明いただき、分かりやすかった。



活動紹介

【小規模町村支援事業モデル地区の榛東村で 認知症サポーター・ステップアップ研修を開催しました】



小規模町村支援事業モデル地区として本学と健康づくり推進に関する包括協定を締結している榛東村で、R3年10月22日、11月1日、12日の3日間にわたり、認知症サポーター・ステップアップ研修を開催しました。

当日は、村内各所から23名の皆さまに受講いただきました。最終日の座談会では、「コロナが収束したら村内巡回型の認知症カフェを開催したい」、「回想法や音楽レクリエーションでみんなを笑顔にしたい」などの意気込みが語られました。

受講者の皆さんの熱意と意識の高さを感じ、これからの活躍が楽しみとなる良い研修会となりました。次年度も同村と本学で協力し、新メンバーを対象とした研修会を予定しています。



受講生の皆さんと
講師担当の看護学部 狩野教授

学生の活動報告

【医療情報技師認定試験に診療放射線学部生2名が合格しました】



医療情報技師とは「医療のため、そして患者のために医療の情報化を担い推進できる医療情報技術の知識・技術を有する者」で、一般社団法人日本医療情報学会が認定する資格です。

昨今、病院では電子カルテをはじめ様々な情報システムが導入されており、医療情報の業務は重要です。放射線科も例外ではなく、莫大なデータやシステムの管理を自身で行えるということは、病院にとっても大きな強みです。

本年度の全国合格率34.5% (829名合格／2,402名受験)という難関を潜り抜けて資格を手にしたのは、診療放射線学部3年西尾卓也さんと梅室愛華さんです。将来、この資格を活かして地域社会にも貢献できる人材として活躍することを願っています。

お知らせ

◆2022年度「出前講座」、「公開授業」のご案内

※コロナの感染状況により、開催方法等の変更の可能性があります。
詳細は、本学ホームページをご覧ください。URL: <http://www.gchs.ac.jp/>

◆2022年度「看護研究セミナー」、「看護研究個別支援成果報告会」のご案内

【開催方法】ハイブリッド開催 (オンデマンド・一部対面)

【開催時期】5月10日～6月6日(予定)

【受講料】無料

【対象】群馬県内の保健医療関係職の方

※詳細は、本学ホームページをご覧ください。

■セミナー内容(90分前後)

セミナー1:「看護研究計画書の作成」

セミナー2:「看護研究における倫理と手続き」

セミナー3:「看護研究のための文献検索と文献検討」

■看護研究個別支援成果報告会



発行: 群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL: 027-235-1211 FAX: 027-235-2501 URL: <https://www.gchs.ac.jp/>

Ⅱ

その他の 地域貢献活動

学会活動

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
教授	横山 京子	日本看護教育学会評議員	日本看護教育学会	令和3年度			
教授	横山 京子	日本看護科学学会代議員	日本看護科学学会	令和3年度			
教授	横山 京子	日本看護教育学会評議員	日本看護教育学会	令和3年度			
教授	横山 京子	日本看護教育学会第30回学術集会 企画委員、実行委員	日本看護教育学会	令和3年8月21日	Web	看護職者	約350名
教授	行田 智子	日本看護研究学会専任査読委員	日本看護研究学会	令和3年度	—	日本看護研究学会員	—
教授	行田 智子	第35回日本母乳哺育学会学術集会企画委員	日本母乳哺育学会	令和元年度～3年度	群馬県・ス大学及びWeb	日本母乳哺育学会	
教授	行田 智子	日本助産学会専任査読委員	日本助産学会	令和3年度	—	日本助産学会員	
教授	山下 暢子	日本看護教育学会指名理事	日本看護教育学会	令和3年度	—	—	—
教授	山下 暢子	日本看護教育学会編集委員会委員長	日本看護教育学会	令和3年度	—	—	—
教授	山下 暢子	日本看護教育学会第30回学術集会企画・実行委員	日本看護教育学会	令和3年8月21日	前橋	看護職者	約350名
教授	山下 暢子	日本看護教育学会評議員	日本看護教育学会	令和3年度	—	—	—
教授	山下 暢子	日本看護教育学会専任査読者	日本看護教育学会	令和3年度	—	—	—
教授	山下 暢子	日本看護研究学会評議員	日本看護研究学会	令和3年度	—	—	—
教授	山下 暢子	日本看護研究学会専任査読者	日本看護研究学会	令和3年度	—	—	—
教授	高井 ゆかり	編集委員会委員	日本老年看護学会	令和3年度	—	—	—
教授	高井 ゆかり	代議員	日本運動器疼痛学会	令和3年度	—	—	—
教授	高井 ゆかり	評議員	日本慢性疼痛学会	令和3年度	—	—	—
教授	高井 ゆかり	代議員 国際活動推進委員会委員 和文誌編集委員 和文誌専任査読委員	日本看護科学学会	令和3年度			
教授	高井 ゆかり	評議員	日本看護研究学会	令和3年度			
教授	高井 ゆかり	専任査読者	日本エンドブライウフケア学会	令和3年度			
教授	狩野 太郎	群馬県がん看護研究会 地域貢献活動担当理事	群馬県がん看護研究会	令和3年度		看護師	
教授	狩野 太郎	日本がん看護学会 査読委員	日本がん看護学会	令和3年度		看護師	
教授	狩野 太郎	第36回日本がん看護学会学術集会・座長	日本がん看護学会	令和4年2月20日	横浜	看護師	ハイブ・リブ
教授	廣瀬 規代美	日本看護科学学会 代議員	日本看護科学学会	令和3年度	東京	学会員	
教授	廣瀬 規代美	日本がん看護学会 代議員	日本がん看護学会	令和3年度	東京	学会員	
教授	廣瀬 規代美	日本がん看護学会 査読委員	日本がん看護学会	令和3年度	東京	学会員	
教授	大澤 真奈美	日本地域看護学会 代議員	日本地域看護学会	令和3年度	—	—	—
教授	大澤 真奈美	日本地域看護学会誌 査読委員	日本地域看護学会	令和3年度	—	—	—
教授	大澤 真奈美	日本公衆衛生看護学会誌 査読委員	日本公衆衛生看護学会	令和3年度	—	—	—
教授	大澤 真奈美	日本ルーラルナース学会 査読委員	日本ルーラルナース学会	令和3年度	—	—	—
教授	大澤 真奈美	千葉看護学会誌 専任査読者	千葉看護学会	令和3年度	—	—	—
教授	大澤 真奈美	日本看護科学学会誌 査読委員	日本看護科学学会	令和3年度	—	—	—
教授	大澤 真奈美	日本産業衛生学会 代議員	日本産業衛生学会	令和3年度	—	—	—
教授	飯田 苗恵	日本看護科学学会 代議員	日本看護科学学会	令和3年度	—	—	—
教授	飯田 苗恵	日本看護科学学会 和文誌専任査読 委員	日本看護科学学会	令和3年10月1日～	—	—	—

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加名数
教授	飯田 苗恵	日本難病看護学会 理事・代議員 教育推進委員会 委員長	日本難病看護学会	令和3年6月13日～	—	—	—
教授	飯田 苗恵	日本難病看護学会 難病看護認定実行委員会 委員	日本難病看護学会	令和3年8月24日～	—	—	—
教授	飯田 苗恵	日本難病看護学会 難病看護認定講習会 ファシリテーター	日本難病看護学会	令和3年12月4日 令和4年2月19日	Web	看護職	約160名
教授	飯田 苗恵	日本難病看護学会 難病看護認定講習会 ファシリテーター [難病緩和ケアの実践]	日本難病看護学会	令和3年6月26日	Web	看護職 支援機関関係職種	約70名
教授	飯田 苗恵	日本難病看護学会企画セミナー企画・運営 [神経難病を極める 多系統萎縮症]	日本難病看護学会	令和3年10月23日	Web	看護職 支援機関関係職種	約160名
教授	飯田 苗恵	日本難病看護学会企画セミナー企画・運営 [難病支援の新展開に向けて]	日本難病看護学会	令和4年3月12日	Web	看護職 支援機関関係職種	約80名
教授	飯田 苗恵	日本プライマリ・ケア連合学会 倫理委員会 委員	日本プライマリ・ケア連合学会	令和3年度	—	—	—
教授	飯田 苗恵	日本在宅看護学会 業務委員会 委員	日本在宅看護学会	令和3年度	—	—	—
教授	飯田 苗恵	第11回日本在宅看護学会学術集会 理事會業務委員会企画 指定交流集会 [withコロナ時代の在宅看護：経験を語り 合い明日につなげよう] 企画・運営	日本在宅看護学会	令和3年11月13日	Web	看護職	約200名
准教授	服部 美香	日本看護教育学会 評議員	日本看護教育学会	令和元年度～現在			
准教授	服部 美香	日本看護教育学会第30回学術集会 企画局長 テーマ「看護職者の実践を支える知の創造」	日本看護教育学会	令和2年7月～ 令和4年2月	Web	看護職者	347名
准教授	大川美千代	日本看護技術学会 評議員	日本看護技術学会	令和3年度	—	—	—
准教授	大川美千代	日本看護歴史学会第35回学術集会 査読者	日本看護歴史学会	令和3年度	—	—	—
准教授	上山 真美	日本プライマリ・ケア連合学会 編集委員会委員	日本プライマリ・ケア連合学会	令和3年度	—	—	—
准教授	上山 真美	日本老年泌尿器科学会 評議員	日本老年泌尿器科学会	令和3年度	—	—	—
准教授	上山 真美	日本看護リハビリテーション学会 査読委員	日本看護リハビリテーション学会	令和3年度	—	—	—
准教授	上山 真美	日本創傷・オストミー・失禁管理学会 査読委員	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	令和3年度	—	—	—
准教授	上山 真美	高齢者排尿誘導ガイドライン作成チームメンバー	日本看護科学学会	令和3年度	—	—	—
准教授	金谷 悦子	日本看護教育学会理事	日本看護教育学会	令和3年度	—	—	—
准教授	金谷 悦子	日本看護教育学会編集委員	日本看護教育学会	令和3年度	—	—	—
准教授	金谷 悦子	日本看護教育学会第30回学術集会企画委員	日本看護教育学会	令和3年8月21日	Web	看護職者	347名
講師	垣上 正裕	日本看護教育学会第30回学術集会 企画委員（会計責任者）	日本看護教育学会	令和3年8月16日～29日	Web	看護職者	約350名
講師	高橋 裕子	日本看護教育学会 第30回学術集会 企 画委員（会計責任者）	日本看護教育学会	令和3年8月21日	Web	看護職者	
講師	高橋 裕子	日本看護教育学会 編集委員	日本看護教育学会	令和3年度	Web	看護職者	
講師	高橋 裕子	群馬思春期研究会 理事	群馬思春期研究会	令和3年度	群馬	看護職者・医師 看護教諭	
講師	高橋 裕子	群馬思春期研究会特別講演会	群馬思春期研究会	令和3年12月4日	群馬県立県民健康科学大 学（ハイブリッド開催）	看護職者・医師 看護教諭等	約100名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
講師	富永 明子	日本看護教育学会第30回学術集会企画委員	日本看護教育学会	令和3年8月16日～29日	Web	看護職者	約350名
講師	富永 明子	日本看護教育学会 評議員	日本看護教育学会	令和3年度			
講師	河内 直美	日本看護教育学会第30回学術集会 企画委員	日本看護教育学会	令和3年8月16日～29日	Web	看護職者	347名
講師	河内 直美	第25回群馬県看護学会 企画・運営	群馬県看護協会	令和3年度	群馬	看護職者	約470名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	下瀬川正幸	医学物理士認定機構 試験委員会委員	一般財団法人医学物理士認定機構	令和3年度	東京	—	—
教授	小倉 敏裕	日本消化管CT技術学会 令和3年度第1回理事会	日本消化管CT技術学会	令和3年5月1日	Web	大学教員、放射線技師	10名
教授	小倉 敏裕	医用画像情報学会 (MII) 第190,191,192回大会理事会	医用画像情報学会	令和3年6月5日、 令和3年10月9日、 令和4年2月5日	Web	大学教員、医師、 放射線技師	39名
教授	小倉 敏裕	医用画像情報学会 (MII) 第190,191,192回大会運営	医用画像情報学会	令和3年6月5日、令和3年 10月9日、令和4年2月5日	Web	大学教員、医師、 放射線技師	200名
教授	小倉 敏裕	日本消化管CT技術学会運営・開催	日本消化管CT技術学会	令和3年6月19日	Web	大学教員、医師、放 射線技師、看護師	500名
教授	小倉 敏裕	日本消化管CT技術学会 MedinarLIVE Round-1 Table	日本消化管CT技術学会	令和3年7月27日	Web	大学教員、医師、放 射線技師、看護師	200名
教授	小倉 敏裕	日本消化管CT技術学会編集委員会編集	日本消化管CT技術学会	令和3年9月29日	Web	大学教員、放射線技師	5名
教授	小倉 敏裕	大腸CTネットフォーラム開催運営	日本消化管CT技術学会、エーザイ 株式会社	令和3年9月30日	Web	大学教員、医師、放 射線技師、看護師	500名
教授	小倉 敏裕	看護理工学会評議委員会	看護理工学会	令和3年10月9日	Web	大学教員、医師、放 射線技師、看護師	30名
教授	小倉 敏裕	第3回CT Colonography Webinar開催	日本消化管CT技術学会、エーザイ株式会社	令和3年3月30日	Web	大学教員、放射線技師	500名
教授	小倉 敏裕	日本消化管CT技術学会誌 査読	日本消化管CT技術学会	令和3年度			
教授	小倉 敏裕	第4回CT Colonography Webinar開催	日本消化管CT技術学会、エーザイ株式会社	令和4年1月13日	Web	大学教員、放射線技師	500名
教授	小倉 敏裕	第5回CT Colonography Webinar開催	日本消化管CT技術学会、エーザイ株式会社	令和4年3月30日	Web	大学教員、放射線技師	450名
教授	佐々木浩二	群馬放射線腫瘍研究会 世話人	群馬放射線腫瘍研究会	令和3年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	日本医学物理学会 代議員	日本医学物理学会	令和3年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	日本医学物理学会 QA/QC委員会委員	日本医学物理学会	令和3年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	日本放射線技術学会 プログラム委員会委員	日本放射線技術学会	令和3年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	日本放射線技術学会 CyPos 審査員	日本放射線技術学会	第78回日本放射線技 術学会総会学術大会	—	—	—
教授	佐々木浩二	Journal of Radiation Research Associate Editor	The Japan Radiation Research Society and Japanese Society for Radiation Oncology	令和3年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	Journal of Radiation Research 査読者	The Japan Radiation Research Society and Japanese Society for Radiation Oncology	令和3年度	—	—	—

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加名数
教授	佐々木浩二	日本放射線技術学会誌 査読者	日本放射線技術学会	令和3年度	—	—	—
教授	原 孝光	世話人	福島県核医学研究会	令和3年度			
教授	原 孝光	論文査読	Jornal of radiation research	令和3年度			
准教授	五十嵐 博	令和3年度 群馬県がん検診エックス線線撮影従事者講習会の運営	一般社団法人群馬県診療放射線技師会	令和3年10月12日、11月9日、12月7日	本学 公益財団法人群馬県健康づくり財団	診療放射線技師	延78名
准教授	五十嵐 博	日本放射線カウンセンシング学会 副会長・理事・倫理委員長・RC委員長・学術委員長・副編集委員長・査読委員・相談員	日本放射線カウンセンシング学会	令和3年度	—	診療放射線技師	—
准教授	五十嵐 博	群馬県診療放射線技師会 副会長・常務理事	一般社団法人群馬県診療放射線技師会	令和3年度	—	診療放射線技師	—
准教授	五十嵐 博	日本診療放射線技師会 代議員・医療被ばく安全管理委員・放射線被ばく相談員分科会委員・査読委員	一般社団法人日本診療放射線技師会	令和3年度	—	診療放射線技師	—
准教授	五十嵐 博	日本医療マネジメント学会 群馬県支部幹事	日本医療マネジメント学会群馬県支部	令和3年度	—	診療放射線従事者	—
准教授	五十嵐 博	大山人間科学研究会 理事長	大山人間科学研究会	令和3年度	—	県内医療従事者	—
准教授	佐藤 哲大	電子情報通信学会和文論文誌D査読委員	電子情報通信学会	令和3年度	—	心理学研究者等	—
准教授	杉野 雅人	日本保健物理学会教員等協議会委員	日本保健物理学会	令和3年度	本学	投稿論文	
准教授	大崎 洋充	群馬県核医学研究会 世話人	富士フイルム富山化学株式会社(現 PDRファーマ株式会社)	令和元年8月22日～	—	大学教員等	24名
准教授	大崎 洋充	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 プログラム委員	日本メジフィジックス株式会社	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	臨床画像診断懇話会 世話人	日本メジフィジックス株式会社	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	日本放射線技術学会 幹事	日本放射線技術学会 関東支部	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	日本放射線技術学会 査読者	日本放射線技術学会	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	Annals of Nuclear Medicine 査読者	日本核医学会	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging 査読者	欧州核医学会	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	核医学技術 査読者	日本核医学技術学会	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	日本核医学会PET核医学分科会 委員	日本核医学会	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	日本放射線技術学会 標準・規格委員会	日本放射線技術学会	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	日本核医学専門技師認定試験委員	日本核医学専門技師認定機構	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	関東脳核医学研究会 世話人	日本メジフィジックス株式会社	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	第96回日本核医学会関東甲信越地方会 座長	日本核医学会	令和4年1月29日	Web	医師・診療放射線技師	約80名
准教授	大崎 洋充	第14回関東脳核医学研究会(KBNM)テクニカルトラックセッション 講演	日本メジフィジックス株式会社	令和4年3月12日	Web	医師・診療放射線技師	約80名
准教授	大崎 洋充	第9回クリニカルPETフォーラム 座長	日本メジフィジックス株式会社	令和3年12月18日	Web	医師・診療放射線技師	約200名
准教授	大崎 洋充	第68回関東支部研究発表大会 フレーズセミナー講演	日本放射線技術学会 関東支部	令和3年11月27日	千葉	診療放射線技師	約50名
准教授	大崎 洋充	クリニカルPETフォーラム 世話人	日本メジフィジックス株式会社	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	PET撮像施設認証制度委員会 委員	日本核医学会	令和3年度			
准教授	大崎 洋充	日本核医学技術学会 評議員	日本核医学技術学会	令和3年度			

II-1. 学会活動

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加名数
准教授	高橋 哲彦	(一社) 日本磁気共鳴医学会代議員	(一社) 日本磁気共鳴医学会	令和元年～現在	—	医学・工学研究者、放射線技師	—
准教授	高橋 哲彦	日本医用画像工学会幹事	日本医用画像工学会	令和元年～令和3年	—	大学教員・研究者	—
准教授	高橋 哲彦	(一社) 日本医用画像工学会代議員	(一社) 日本医用画像工学会	令和3年～現在	—	大学教員・研究者	—
准教授	高橋 哲彦	日本放射線技術学会第77回総会学術大会 座長「撮影 (MRI) 画質評価」	(公社) 日本放射線技術学会	令和3年4月16日	横浜	大学教員、放射線技師	約100名
准教授	高橋 哲彦	日本放射線技術学会第49回秋季学術大会 座長「撮影 (MRI) DWI」	(公社) 日本放射線技術学会	令和3年10月15日	熊本	大学教員、放射線技師	約100名
准教授	高橋 哲彦	学術研究班「fMRI検査用金属探知機の特性 評価に関する研究班」班員	(公社) 日本放射線技術学会	令和2年～令和4年	—	大学教員、放射線技師	6名
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会第77回総会学術大会 司会、座長、シンポジウム講師	日本放射線技術学会	令和3年4月16日～ 19日	横浜	診療放射線技師、研究者	
准教授	林 則夫	群馬MR研究会第249回定例会 講師	群馬MR研究会	令和3年6月30日	Web	診療放射線技師	
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会第49回秋季学術大会 ワークセッション司会	日本放射線技術学会	令和3年10月15日～ 17日	熊本	診療放射線技師、研究者	
准教授	林 則夫	医用画像情報学会令和3年度春季(第192回)大会 座長	医用画像情報学会	令和4年2月5日	Web	診療放射線技師、研究者	
准教授	林 則夫	信州放射線ミーティング2021 講師	信州大学医学部附属病院 放射線部	令和4年3月4日	Web	診療放射線技師	
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 撮影部会委員	日本放射線技術学会	令和3年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 国際戦略委員会委員	日本放射線技術学会	令和3年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 プログラム委員会委員	日本放射線技術学会	令和3年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 代議員	日本放射線技術学会	令和3年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 学術推進員	日本放射線技術学会	令和3年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会学術研究班「fMRI検査用 金属探知機の特性評価に関する研究」班長	日本放射線技術学会	令和3年度			
准教授	林 則夫	医用画像情報学会 常務理事	医用画像情報学会	令和3年度			
准教授	林 則夫	研究会 幹事	群馬MR研究会	令和3年度			
准教授	林 則夫	研究会 代表世話人	群馬Gyro Users Meeting	令和3年度			
准教授	林 則夫	研究会 幹事	群馬CTMRI研究会	令和3年度			
准教授	林 則夫	研究会 幹事	群馬MR医学研究会	令和3年度			
准教授	林 則夫	Radiological Physics and Technology誌 査読者	日本放射線技術学会	令和3年度			
准教授	渡部 晴之	医用画像情報学会 理事	医用画像情報学会	令和3年度			
准教授	渡部 晴之	第77回日本放射線技術学会総会学術大会 座長	日本放射線技術学会	令和3年度	横浜	大学教員、放射線技師、学生	
助教	川村 拓	日本放射線技術学会学術大会	日本放射線技術学会	令和3年度	Web	大学教員、放射線技師	約5名
助教	川村 拓	日本診療放射線技師会査読者	日本診療放射線技師会	令和3年度	—	—	—
助教	川村 拓	日本診療放射線技師会 臨床実習指導教育委員	日本診療放射線技師会	令和3年度	Web	—	7名
助教	川村 拓	日本診療放射線技師会 臨床実習施設分会委員	日本診療放射線技師会	令和3年度	Web	—	6名
助教	米持 圭太	群馬県診療放射線技師会 常務理事・教育部長	群馬県診療放射線技師会	令和3年度	—		
助教	米持 圭太	日本診療放射線技師会 教育委員	日本診療放射線技師会	令和3年度	—		
助教	米持 圭太	群馬県核医学研究会 世話人	群馬県核医学研究会	令和3年度	—		

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
助教	米持 圭太	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 プログラム委員(世話人兼務)	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	令和3年度	—		
助教	米持 圭太	群馬県庁放射線技師会 地区幹事・学術部員	群馬県庁放射線技師会	令和3年度	—		
助教	米持 圭太	2022年度関東甲信越診療放射線技師学術大会(群馬県) 実行委員(学術委員長)	群馬県診療放射線技師会	令和3年5月～令和4年6月	群馬	診療放射線技師	
助教	米持 圭太	第69回群馬核医学研究会 企画	群馬県核医学研究会	令和3年6月19日	Web	医師・診療放射線技師	約50名
助教	米持 圭太	第32回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 企画・講師	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	令和3年6月30日	Web	診療放射線技師	約30名
助教	米持 圭太	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー(令和3年度) 運営・講師	日本診療放射線技師会 群馬県診療放射線技師会	令和3年9月26日	Web	診療放射線技師	15名
助教	米持 圭太	第70回群馬核医学研究会 企画	群馬県核医学研究会	令和3年11月27日	Web	医師・診療放射線技師	約50名
助教	米持 圭太	第33回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 企画	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	令和4年2月16日	Web	診療放射線技師	約30名
助教	米持 圭太	令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第1回群馬県開催) 開催担当者・ファシリテーター	日本診療放射線技師会 群馬県診療放射線技師会	令和4年2月19日	群馬	診療放射線技師	37名
助教	米持 圭太	令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム(第2回群馬県開催) 開催担当者・ファシリテーター	日本診療放射線技師会 群馬県診療放射線技師会	令和4年2月20日	群馬	診療放射線技師	37名

一般住民・団体を対象とした講演・研修
【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	狩野 太郎	元気に動こう・歩こう実践リーダー研修・認知症や寝たきりを予防する身体活動とその効果 *VWeb 配信	群馬県健康福祉部保健予防課	令和3年9月4日	高崎健康福祉大学	研修受講者	20名
講師	高橋 裕子	群馬県思春期研究会 理事	群馬県思春期研究会	令和3年度	群馬	看護職者・医師 看護教諭	
講師	高橋 裕子	群馬県思春期研究会特別講演会	群馬県思春期研究会	令和3年12月4日	群馬県立県民健康科学大学 (ハイブリッド開催)	看護職者・医師 看護教諭等	約100名
講師	高橋 裕子	思春期ピアカウンセリング養成セミナー(前期コース)	群馬県ピアカウンセリング研究会	令和3年8月7.8.28、29日	高崎健康福祉大学	大学生	約20名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	瀬川 篤記	令和2年度公開講座「感染症対策これだけは!」新型コロナウイルス、私は結局どうすればいいの? ~すべきこと、しなくともよいこと、してはいけないこと~	群馬県立県民健康科学大学	令和3年度中に再公開	群馬県立県民健康科学大学 (Web)	住民	約80名
助教	米持 圭太	診療放射線技師の仕事について	群馬県立太田東高等学校	令和3年11月8日	群馬県立太田東高等学校	高校生	15名

保健医療専門職を対象とした講演・研修
【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	行田 智子	予防的支援推進とうきょうモデル事業 両親調査(演習)	東京都医学総合研究所	令和3年8月12日、 19日	Web	看護職、心理士、ソーシャルワーカー等	50名
教授	行田 智子	養育支援訪問員の養成講座 家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～	HEALTHY FAMILY はままつ	令和3年11月13日	Web	看護職、保育士等	6名
教授	行田 智子	科研成果報告会 両親調査(入門編)と支援	行田智子	令和3年11月2日、4日	群馬県立県民健康科学大学	保健師、助産師等	12名
教授	山下 暢子	群馬県実習指導者講習会「看護論」	群馬県	令和3年5月17日～ 6月7日	群馬県看護協会	県内の実習指導者	約50名
教授	山下 暢子	前橋赤十字病院「新臨床指導者研修会」[看護学実習に関する基礎的知識]	前橋赤十字病院	令和3年6月21日	前橋赤十字病院	臨床指導者	約20名
教授	山下 暢子	看護教員養成講習会フォローアップ研修 専任教員としての看護学教育のあり方を再考する～看護学実習に取り組む学生理解に役立つ知識の理解と活用～	新潟県	令和3年8月28日	Web	看護学教員	12名
教授	山下 暢子	IMS実習指導者講習会「看護論」	IMSグループ	令和3年11月23日～ 12月12日	板橋中央看護専門学校	実習指導者	約50名
教授	高井ゆかり	教育講演 認知症の人の痛みのアセスメントとケア	ぐんま認知症アカデミー 第16回 春の研修会web開催	令和3年6月6日	Web	医療福祉専門職者等	
教授	高井ゆかり	教育講演 慢性的な体の痛みのある高齢者への看護	日本老年看護学会第26回学術集会	令和3年6月11日	Web	看護師	
教授	高井ゆかり	教育講演 認知症の痛みを把握するポイント	一般社団法人日本認知症ケア学会 2021年度関東ブロック大会	令和4年2月28日	Web	医療福祉専門職者等	
教授	狩野 太郎	令和3年ぐんま認定介護福祉士養成研修 講師「研究方法」[研究活動について]	群馬県保健福祉部介護高齢課	令和3年7月5日、 10月7日	群馬県社会福祉事業 団特別養護老人ホーム 明風園 研修室	介護福祉士	80名
教授	狩野 太郎	令和3年度認定看護管理者制度ファースト レベル教育課程 (看護情報論)	群馬県看護協会	令和3年11月17日、 18日	群馬県看護教育センター およびWeb	看護師	60名
教授	大澤真奈美	認定看護管理者教育課程ファーストレベル [ハルスケアシステム論Ⅰ]	群馬県看護協会	令和3年9月9日	群馬県看護教育センター	看護職者	67名
教授	大澤真奈美	群馬県保健師助産師看護師実習指導者講習 会「保健師教育課程」	群馬県看護協会	令和3年5月20日	群馬県看護教育センター	看護職者	50名
教授	飯田 苗恵	2021年度認定看護管理者教育課程 セカンドレベル 講師 [ハルスケアシステム論Ⅱ][統合演習Ⅱ]	群馬県看護協会	令和3年6月18日 令和3年9月3日	群馬県看護教育センター	看護管理者	約25名
教授	飯田 苗恵	令和3年度訪問看護研修 [指導者編] [指導方法と評価] 講師	群馬県看護協会	令和3年11月18日	群馬県看護教育センター	訪問看護師	約15名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
准教授	清水 裕子	認定看護管理者研修教育課程セカンダレベル「組織マネジメントの実践」	群馬県看護協会	令和3年6月9日～6月17日(4日間)	群馬県看護教育センター	県内看護職者	25名
准教授	清水 裕子	看護師職能I研修「ファシリテーションの技法を学ぶ」	群馬県看護協会	令和3年9月28日	群馬県看護教育センター	県内看護職者	約30名
准教授	清水 裕子	「CNSの行う倫理調整(倫理の基本)」	岩手県立大学看護実践研究センター	令和4年2月5日	Web	岩手県内看護職者	約10名
准教授	清水 裕子	「研究抄録の書き方と査読基準」	群馬がん看護研究会	令和4年1月29日	Web	県内看護職者	5名
准教授	清水 裕子	ELNEC-Jにおけるファシリテーター	岩手県がん看護研究会、岩手県立大学	令和4年2月11日、12日	Web	岩手県内看護職者	約10名
准教授	服部 美香	群馬県実習指導者講習会「実習評価」	群馬県看護協会	令和3年5月～6月	群馬県看護教育センター	看護職者	約70名
准教授	服部 美香	認定看護管理者ファーストレベル教育課程「総合演習I」	群馬県看護協会	令和3年10月～12月	群馬県看護教育センター	看護職者	約60名
准教授	服部 美香	初めての看護研究(基礎編)	新潟県看護協会	令和3年12月14日	新潟県看護研修センター	看護職者	23名
准教授	大川美千代	高齢者に多い入浴事故	有会社ほくせい	令和4年1月6日	デイサービスセンターこもれび太田	介護士、看護士、ケアマネ	約20名
助教	高橋美穂子	看護研究に関する研修	公立館林厚生病院	令和3年5月～3月	公立館林厚生病院	看護士	約16名
准教授	上山 真美	看護研究個別支援	群馬県立精神医療センター看護部	令和3年4月～令和4年3月	Web	看護士	3名
講師	垣上 正裕	看護職員認知症対応能力向上研修	公益社団法人群馬県看護協会	令和3年8月26日	群馬県看護協会教育センター	看護職員	
講師	戸谷 幸佳	高齢者ケア専門研修・チームケアのためのコミュニケーション講座	社会福祉法人群馬県社会福祉事業団研修指導センター	令和3年12月13日	特別養護老人ホーム明風園	介護施設職員	
講師	戸谷 幸佳	認知高齢者の日常生活・社会生活における意思決定支援	公益社団法人群馬県看護協会	令和3年9月21日	群馬県看護協会教育センター	看護職員	
講師	佐々木馨子	令和3年度訪問看護看護養成研修 [ステップ1]	群馬県看護協会	令和3年8月5日 令和3年8月25日	群馬県看護協会	看護職	22名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	下瀬川正幸	放射線医学総合研究所第17回医学物理コース講師「放射線診断物理学」	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所	令和3年7月13日	放射線医学総合研究所(千葉市)	医学物理士	30名
教授	佐々木浩二	放射線治療 医学物理講義 講師	磐田市立総合病院	令和3年度	磐田市立総合病院	医学物理士、診療放射線技師、医師	—
教授	瀬川 篤記	2021年度第2回 群馬県がん検診エックス線撮影従事者講習会	群馬県診療放射線技師会	令和3年11月9日	群馬県立県民健康科学大学	診療放射線技師	約50名
准教授	五十嵐 博	社会心理学 社会の中の個人	日本放射線カウンスリング学会	令和3年6月12日	Web	診療放射線技師	約30名
准教授	五十嵐 博	タスクシェア/シフトおよび教育カリキュラムの改正概要について	公益社団法人日本放射線技術学会関東支部	令和3年6月18日	Web	診療放射線技師	52名
准教授	五十嵐 博	放射線被ばく相談員講習会 傾聴訓練指導	公益社団法人日本診療放射線技師会	令和3年12月12日、 令和4年1月29日	Web	診療放射線技師	延85名
准教授	五十嵐 博	対応が困難であった放射線被ばく相談から学ぶ	日本放射線公衆安全学会	令和4年3月5日	Web	診療放射線技師	163名
准教授	高橋 哲彦	FUJIFILM MRI Seminar 2021<関東信越>「位相画像の基礎から応用」	富士フイルムヘルスケア(株)	令和3年7月1日	Web	放射線技師	150名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
助教	川村 拓	効果的な臨床実習計画	第37回日本診療放射線技師学術大会	令和3年11月13日	東京ビッグサイト	診療放射線技師	約20人
助教	米持 圭太	第32回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会「業務拡大と告示研修について」	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	令和3年6月15日	Web	診療放射線技師	約30名
助教	米持 圭太	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー（令和3年度）「エチケット・マナー講座」	日本診療放射線技師会	令和3年9月26日	Web	診療放射線技師	15名
助教	米持 圭太	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー（令和3年度）「医療コミュニケーション」	群馬県診療放射線技師会	令和3年9月26日	Web	診療放射線技師	15名
助教	米持 圭太	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー（令和3年度）「医療ばくしの現状とその低減に向けた取り組み」	日本診療放射線技師会	令和3年9月26日	Web	診療放射線技師	15名
助教	米持 圭太	令和3年厚生労働省告示第273号研修における実技研修プログラム ファシリテータ（静脈路確保担当）	群馬県診療放射線技師会	令和4年2月19日	群馬県	診療放射線技師	37名
助教	米持 圭太	令和3年厚生労働省告示第274号研修における実技研修プログラム ファシリテータ（静脈路確保担当）	群馬県診療放射線技師会	令和4年2月20日	群馬県	診療放射線技師	37名

行政組織での活動等

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
教授	横山 京子	群馬県健康福祉部医学系研究等に係る倫理委員会委員	群馬県健康福祉課	令和3年9月～令和4年3月	紙面会議	群馬県職員	—
教授	行田 智子	予防的支援推進とうきょうモデル事業アドバイザリーボード委員	東京都医学総合研究所	令和3年7月～令和4年3月	東京都、Web	看護職、心理士、ソーシャルワーカー等	—
教授	高井ゆかり	群馬県高齢介護推進協議会委員	群馬県高齢介護課	令和3年度	群馬会館、群馬大学医学部附属病院	患者・一般市民	Web配信
教授	狩野 太郎	群馬県がん診療連携拠点病院連協議会市民講座企画ワーキングメンバー	群馬県／群馬県診療連携拠点病院連絡協議会	令和3年度	群馬県庁	—	—
教授	大澤真奈美	群馬県アルコール健康障害対策連絡協議会委員	群馬県健康福祉部障害政策課	令和3年度	群馬県庁	—	—
教授	大澤真奈美	県民健康・栄養調査企画解析検討委員会	群馬県健康福祉部保健予防課	令和3年度	群馬県庁	—	—
教授	大澤真奈美	前橋市介護保険認定審査会委員	前橋市介護保険課	令和3年度	前橋市役所	—	—
教授	大澤真奈美	前橋市自立支援給付認定審査会委員	前橋市障害福祉課	令和3年度	前橋市保健所	—	—
教授	大澤真奈美	前橋市食育推進会議委員	前橋市健康増進課	令和3年度	前橋市保健センター	—	—
教授	大澤真奈美	前橋市環境審議会委員	前橋市環境政策課	令和3年度	前橋市役所	—	—
教授	大澤真奈美	第2期榛東村総合戦略有識者会議委員	榛東村企画財政課	令和3年度	榛東村役場	—	—
教授	大澤真奈美	群馬県開発審査会委員	群馬県県土整備部建築課	令和3年度	群馬県庁	—	—
教授	大澤真奈美	群馬県建築審査会委員	群馬県県土整備部建築課	令和3年度	群馬県庁	—	—
教授	大澤真奈美	群馬県廃棄物処理施設等専門委員会委員	群馬県環境森林部廃棄物・リサイクル課	令和3年度	群馬県庁	—	—
教授	大澤真奈美	群馬県公害審査会委員	群馬県環境森林部環境保全係	令和3年度	群馬県庁	—	—
教授	大澤真奈美	群馬県住生活基本計画2021策定委員	群馬県県土整備部住宅政策課	令和3年度	群馬県庁	—	—
教授	飯田 苗恵	前橋市特別養護老人ホーム等設置法人選定委員会副委員長	前橋市長寿包括ケア課	令和3年度	前橋市役所	—	—
准教授	上山 真美	前橋市認知症初期集中支援チーム	前橋市長寿包括ケア課	令和3年度	前橋市包括支援センター西部/Web	—	—

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
講師	垣上 正裕	企業等関係者人権啓発研修会講師	高崎市市民部人権男女共同参画課	令和4年1月20日	高崎市産業創造館	企業関係者	50名
講師	垣上 正裕	高校中堅教諭資質向上研修講師	群馬県総合教育センター	令和3年12月	Web	高校教諭	82名
講師	垣上 正裕	中堅看護教員資質向上研修講師	群馬県総合教育センター	令和3年10月27日	群馬県総合教育センター	小・中・高・中等・ 特の看護教諭	16名
講師	坪井 りえ	榛東村地域包括支援センター運営協議会 榛東村地域密着型サービス運営委員会 第7期榛東村介護保険事業計画及び高齢者福祉計画策定懇談会	榛東村健康保険課	令和3年10月～12月	(書面開催)	—	—

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	佐々木浩二	放射線・陽子線治療品質管理委員会 委員	静岡県立静岡がんセンター	令和3年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	放射線治療品質管理委員会 委員	磐田市立総合病院 (静岡県)	令和3年度	—	—	—
教授	瀬川 篤記	診療 (病理診断) の支援	桐生厚生総合病院	令和3年4月 ～令和4年3月	桐生厚生総合病院	患者様	のべ約 300例
教授	原 孝光	量子科学技術研究開発機構 量子ビーム科学 学研究部門 高崎量子応用研究所 協力研究員	量子科学技術研究開発機構 量子 ビーム科学研究部門 高崎量子応 用研究所	令和3年度	量子科学技術研究開発機構 量子ビーム科学研究部門 高崎量子応用研究所	—	—
准教授	杉野 雅人	環境放射線測定に関する協力研究員	国立研究開発法人 量子科学技術 研究機構 福島再生支援研究部	令和3年4月～令和4年3月	量子科学技術研究 機構	—	—
准教授	杉野 雅人	前橋市放射線管理アドバイザー	前橋市環境部環境森林課	令和3年4月～令和4年3月	—	—	—
准教授	杉野 雅人	みどり市放射線対策アドバイザー	みどり市市民部生活環境課	令和3年4月～令和4年3月	—	—	—
准教授	杉野 雅人	川場村放射線対策アドバイザー	川場村役場むらづくり振興課	令和3年4月～令和4年3月	—	—	—
助教	川村 拓	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 協力研究員	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所	令和3年度	—	—	—
助教	川村 拓	国立研究開発法人 理化学研究所 客員研究員	国立研究開発法人 理化学研究所	令和3年度	—	—	—

任意団体での活動

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	横山 京子	群馬県看護協会倫理委員会	群馬県看護協会	令和3年度	群馬県看護協会	—	—
教授	横山 京子	群馬県看護系大学協議会	群馬県看護系大学協議会	令和3年6月21日	Web	—	—
教授	行田 智子	看護・助産教育支援フォーラム	倫理委員	令和3年度	—	—	約〇名
教授	行田 智子	群馬パース大学	紀要査読外部委員	令和3年度	—	—	—
教授	高井ゆかり	第2回認知症の緩和ケアに関する研究会の開催と運営	認知症の緩和ケアに関する研究会	令和3年7月4日	Web	医療福祉専門職者等	1,709人
教授	高井ゆかり	ぐんま認知症アカデミー第16回秋の研修会の開催と運営	ぐんま認知症アカデミー	令和3年12月5日	Web	医療福祉専門職者等	—
教授	狩野 太郎	群馬県がん患者ミーティング2022企画	群馬県がん患者団体連絡協議会	新型コロナウイルス感染症により中止	群馬県健康づくり財団	患者・一般市民	—

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	狩野 太郎	リレーフォーライフジャパン2021ぐんま副実行委員長	日本対がん協会、リレーフォーライフジャパンぐんま実行委員会	令和3年10月8日	群馬県健康づくり財団	患者・一般市民ほか	Web配信
教授	狩野 太郎	群馬県がん患者団体連絡協議会 運営委員	群馬県がん患者団体連絡協議会	令和3年度	群馬県健康づくり財団	患者	
教授	廣瀬規代美	群馬がん看護研究会 理事	群馬がん看護研究会	令和3年度	群馬大学他	会員	
教授	廣瀬規代美	群馬がん看護研究会 教育委員会委員長	群馬がん看護研究会	令和3年度	群馬大学他	会員	
教授	大澤真奈美	地域看護学教育方法の開発	大学間連携による地域看護学教育FD戦略会議	令和3年度	メンバーの所属大学	大学教員	全国19大学 約40名
教授	飯田 苗恵	令和3年度ぐんま在宅看護教育連絡会議開催・運営	ぐんま在宅看護教育連絡会	令和3年8月18日	Web	会員	
教授	飯田 苗恵	認定看護師教育課程入試委員会 外部委員	高崎健康福祉大学看護実践開発センター	令和3年度	高崎健康福祉大学	—	—
准教授	鶴生川恵美子	中学生の学修支援	NPO 教育支援北関東	令和3年4月~令和4年4月	地域公民館	中学生	約10名
准教授	清水 裕子	群馬がん看護研究会 理事兼教育委員	群馬がん看護研究会	令和3年度	—	—	
准教授	上山 真美	群馬コンチネンスフォーラム	群馬コンチネンスフォーラム幹事	令和3年度	Web	医療関係者	約50名
講師	高橋 裕子	大学生によるピアエデュケーション	群馬ピアカウンセリング研究会	令和3年9月8日	群馬県立黴学校 (Web)	高等部生徒	13名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	下瀬川正幸	大学機関別認証評価 専門委員	一般財団法人大学教育質保証・評価センター	令和3年度	—	—	—
教授	下瀬川正幸	理事会 オブザーバー	全国診療放射線技師教育施設協議会	令和3年10月~	—	—	—
教授	下瀬川正幸	放射線部門責任者会議 メンバー	一般社団法人群馬県診療放射線技師会	令和3年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	放射線治療品質管理委員会 外部委員	慈泉会 相澤病院	令和3年度	—	—	—
教授	瀬川 篤記	診療(病理診断)の支援	医療法人社団 美心会 黒沢病院	令和3年4月 ~令和4年3月	黒沢病院 (高崎)	患者様	のべ約 100例
准教授	五十嵐 博	群馬県環境アドバイザー	群馬県環境アドバイザー協会	令和3年度	—	—	
助教	川村 拓	桃の木リバーを愛する会：花壇苗植え	桃の木リバーを愛する会	令和3年6月1日	桃の木川		
助教	川村 拓	桃の木リバーを愛する会：花壇苗植え	桃の木リバーを愛する会	令和3年11月10日	桃の木川		

他教育機関非常勤講師

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ(科目名等)	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	横山 京子	人間学 I	千葉大学看護学部	令和3年4月~5月	Web	看護学部 学生	約90名
教授	横山 京子	群馬県立県民健康科学大学地域連携センターにおける現任者教育-魅力ある現任者教育のための課題と工夫-	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	令和4年2月28日	Web	教職員	約15名
教授	行田 智子	妊娠期の助産診断技術学	高崎健康福祉大学大学院	令和3年4月1日~9月27日	高崎健康福祉大学大学院	助産専攻院生	5名
教授	石川 良樹	生化学	高崎健康福祉大学保健医療学部	令和3年4月15日~6月10日	Web	看護学生 理学療法学生	約150名
教授	石川 良樹	人体の構造と機能 I (生化学)	茨川看護専門学校	令和3年4月12日~5月17日	茨川看護専門学校	看護専門高校生	40名

職位	氏名	活動・テーマ (科目名等)	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	石川 良樹	医薬品とその作用	育英短期大学現代コミュニケーション学部	令和3年9月30日～ 令和4年1月20日	育英短期大学	短期大学生	41名
教授	山下 暢子	地域完結型看護実習指導論	群馬大学大学院	令和3年8月19日	群馬大学大学院	博士前期課程院生	約50名
教授	山下 暢子	看護教育学	新潟県立看護大学大学院	令和3年12月21日～ 令和4年1月25日	新潟県立看護大学	博士前期課程院生	6名
教授	高井ゆかり	看護学研究概論	群馬大学大学院	令和3年6月23日、30日	Web	博士後期課程学生	
教授	狩野 太郎	本庄児玉看護専門学校非常勤講師 (研究の基礎 文献検索入門、研究方法論 (1) 調査・実験研究)	本庄児玉看護専門学校	令和3年12月6日	本庄児玉看護専門学校	看護学生	40名
教授	廣瀬規代美	成人看護学各論Ⅱ「喉頭がん」	茨川看護専門学校	令和3年5月24日	茨川看護専門学校	看護学生	42名
教授	大澤真奈美	地域看護方法「精神保健福祉対策と保健師 活動」[難病対策と保健師活動]	千葉大学看護学部	令和3年11月25日	千葉大学看護学部	看護学生	約90名
教授	大澤真奈美	産業保健	足利大学看護学部	令和3年9月～12月	足利大学看護学部	看護学生	約80名
教授	大澤真奈美 鈴木美雪 坪井りえ 塩ノ谷朱美	保健環境論	上尾中央看護専門学校	令和3年9月～令和 2年1月	上尾中央看護専門学校	看護学生	約80名
准教授	鶴生川恵美子	医療英語	前橋東看護学校	令和3年4月15日～ 9月16日	前橋東看護学校	看護学生	32名
准教授	鶴生川恵美子	英語文学	育英短期大学	令和3年11月26日～ 令和4年1月28日	育英短期大学	大学生	約10名
准教授	鶴生川恵美子	世界の言語と文化	育英短期大学	令和3年10月1日～ 令和4年1月28日	育英短期大学	大学生	約50名
准教授	鶴生川恵美子	放送大学・面接授業:「英米の児童文学で学ぶ基礎英語」	放送大学・群馬学習センター	令和3年5月8日、9日	放送大学・群馬学習センター	社会人	約10名
准教授	清水 裕子	がん看護緩和ケア演習	群馬大学大学院保健学研究科	令和3年10月1日	Web	大学院生	2名
准教授	服部 美香	看護研究	深谷大里看護専門学校	令和3年4月～5月	深谷大里看護専門学校	看護学生	約40名
講師	垣上 正裕	発達と老化の理解	群馬パース大学福祉専門学校	令和3年4月～6月	群馬パース大学福祉専門学校	専門学校学生	30名
講師	佐々木馨子	成人看護学各論Ⅱ「神経難病」	茨川看護専門学校	令和3年5月28日	茨川看護専門学校	看護学生	40名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ (科目名等)	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	下瀬川正幸	放射線学シミュレーション特論、放射線画像解析学特論Ⅱ	群馬大学大学院医学系研究科	令和3年度	—	—	—
教授	下瀬川正幸	学校評議員	高崎健康福祉大学高崎高等学校	令和3年度	—	—	—
教授	青木 武生	解剖生理学Ⅲ (骨、筋、内分泌、免疫)	館林高等看護学院	令和3年4月16日～5月21日	館林高等看護学院	看護学生	約40名
教授	青木 武生	病理学総論	館林高等看護学院	令和3年9月27日～11月8日	館林高等看護学院	看護学生	約40名
教授	小倉 敏裕	「放射線検査」	前橋東看護学校	令和3年4月14日～ 令和3年7月8日	前橋東看護学校	看護学生	50名
教授	瀬川 篤記	臨床実習	群馬大学	令和3年6月～ 令和3年11月	群馬大学医学部附属病院	医学科学生および 初期研修医	のべ約 30名

職位	氏名	活動・テーマ (科目名等)	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	原 孝光	群馬大学腫瘍放射線学講座協力研究員	群馬大学	令和3年4月～ 令和4年3月	群馬大学		
教授	原 孝光	放射線管理計測学特論	群馬大学大学院医学系研究科	令和3年4月～ 令和4年3月	群馬大学		
教授	原 孝光	医療基礎生物学	群馬パース大学	令和3年4月～ 令和3年8月	群馬パース大学		
准教授	五十嵐 博	医療人間工学	館林高等看護学院	令和3年4月19日～ 6月14日	館林高等看護学院	看護学生	約40名
准教授	佐藤 哲大	修士論文研究指導	奈良先端科学技術大学院大学	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	奈良先端科学技術 大学院大学	情報科学研究科博 士前期課程学生	1名
准教授	杉野 雅人	放射線安全管理特論	群馬大学大学院医学系研究科	令和3年4月1日～ 令和4年3月	—	—	—
准教授	高橋 哲彦	非常勤講師 (履修証明プログラム)「健康寿命デザイン特論」 診断支援アプリケーションと健康寿命/ヘルス ケア・システムと健康寿命/健康寿命における デジタルソリューションの基盤技術と先端事例	東京都立産業技術大学院大学	令和4年2月27日	Web	大学院生	11名
准教授	高橋 哲彦	客員研究員 (技能学習プラットフォームの 構築とその効果検証)	東京都立産業技術大学院大学	令和3年3月25日～ 令和4年3月31日	東京・前橋	—	—
准教授	長島 宏幸	人間工学	前橋市医師会立前橋高等看護学院	令和3年4月6日～ 令和4年3月31日	前橋市医師会立前 橋高等看護学院	看護学生	26名
准教授	林 則夫	非常勤講師：放射線画像技術学特論	群馬大学大学院医学系研究科	令和3年度			
助教	川村 拓	医用画像情報学実験	東京都立大学	令和3年4月1日～ 令和3年9月30日	東京都立大学ある いはWeb	放射線学生	約40名
助教	川村 拓	東京都立大学客員研究員	東京都立大学	令和3年度	東京都立大学	—	—

【看護学部】

職位	氏名	報道機関	全国版・地方版 (番組名)	掲載日時	テーマ
講師	垣上 正裕	上毛新聞	地方版	令和4年1月27日	企業関係者50人権啓発研修会

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程

(設置)

第1条 この規程は、群馬県公立大学法人組織規程第7条の規定に基づき、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター（以下「センター」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民の保健、医療及び福祉の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次のことに係る事業を実施するものとする。

- (1) 看護学教員養成課程に関すること
- (2) 看護師特定行為研修課程に関すること
- (3) 県立病院・県内病院等との連携に関すること
- (4) 看護職に対する研究支援に関すること
- (5) 放射線教育・研修に関すること
- (6) 放射線測定等に関すること
- (7) 教育普及に関すること
- (8) 地域との連携推進に関すること
- (9) 県と連携した健康福祉政策に関すること
- (10) 健康寿命延伸プロジェクトに関すること
- (11) その他前条の目的を達成するために必要なこと

(組織)

第4条 センターには、センター長及び副センター長を置く。

- 2 前条に定める事業を推進し、目的を達成するため、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）を設置する。
- 3 センター運営会議に、前条の事業を実施するため、地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）を置く。
- 4 センター運営会議及びセンター運営委員会は、センター長が主宰する。
- 5 副センター長は、センター長を補佐する。

(協議及び報告)

第5条 センター長は、センター事業の運営方針や進捗状況等について、大学運営会議に協議及び報告するものとする。

(事務)

第6条 センター運営会議及び運営委員会の事務は、事務局教務係で処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの設置運営に関し必要な事項については、学長が別に定めるものとする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議及び 地域連携センター運営委員会設置運営細則

(趣旨)

第1条 この細則は、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程第7条の規定に基づき、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）及び地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定めるものとする。

(センター運営会議の組織)

第2条 センター運営会議は、次の構成員によって組織する。

- (1) 地域連携センター長（以下「センター長」という。）及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) 事務局長
- (5) 学外有識者
- (6) 県職員の内からセンター長が必要と認める者
- (7) その他センター長が必要と認める者

(センター運営会議委員の任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議の運営)

第4条 センター運営会議は、センター長が招集し、その議長となる。

- 2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。
- 3 センター運営会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 センター運営会議の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営会議の審議事項)

第5条 センター運営会議は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営方針に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画の策定及び評価に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(センター運営委員会の組織)

第6条 センター運営委員会は、次の構成員によって組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) その他センター長が必要と認める者

(センター運営委員会委員の任期)

第7条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

Ⅲ 関連規程

(センター運営委員会の運営)

第8条 センター運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

- 2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。
- 3 センター運営委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 センター運営委員会の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営委員会の審議事項)

第9条 センター運営委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営及び事業の実施に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画及び評価の検討に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃の検討に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(委員以外の者の出席)

第10条 センター運営会議及びセンター運営委員会の議長は、会議の運営上必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

令和3年度地域貢献活動報告書

発行者 群馬県立県民健康科学大学
〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL 027-235-1211
FAX 027-235-2501
印刷所 朝日印刷工業株式会社

